仮面ライダーアナザーディケイド・スピンオフ！！

矢部小路ＸＸ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
仮面ライダーアナザーディケイド・スピンオフ！！

【Ｎコード】
Ｎ４１７８Ｒ

【作者名】
矢部小路ＸＸ

【あらすじ】
あのアナザーディケイドがスピンオフで登場！！究極空間〈アルティメット・ディメンジョン〉で、こなたが、かがみが、縦横無尽に大暴れ！…時々、作者の私も乱入！楽しい笑いの時間をどうぞ！！※このノベルはキャラ崩壊が激しく、原作の方がいい方は、早めに回れ右する事をお勧めします。

ボケ　1　まずは自己紹介から。（前書き）

ＯＰコント「ＯＰ」

こなた「さぁ始まるざますよ！」
みゆき「いくでガンス。」
つかさ「フンガー！」
かがみ「まともに始めなさいよ！」

こなた「何か、飽きちゃったねー。」
かがみ「新しいパターンが必要かもね。」
ＸＸ「じゃ、これならどう？」

こなた「泣けるで！」
みゆき「私に、釣られてみます？」
つかさ「答えは聞いてない！」
かがみ「いくぜ、いくぜ、いくぜぇぇぇぇぇっ！！」

こなた「…やっぱ、だめだ。いつものでいいや。」
ＸＸ「私の苦労って、一体…。」

ボケ　1　まずは自己紹介から。

ＸＸ「さて、まずはみんなの自己紹介から。」

仮面ライダーアナザーディケイド～青い瞳の破壊者～・サイド

シャイアン「私がシャイアン・ブルーローズ、仮面ライダーアナザーディケイドだ。よろしく。」
こなた「そして私が本編のもう一人の主人公、泉　こなただよ、よろしく～。」
かがみ「私は柊　かがみ、仮面ライダークウガよ。みんな、よろしくね。」
つかさ「私は柊　つかさ、仮面ライダーアギトです。よろしくね～。」
みゆき「私は高良　みゆき、仮面ライダー響鬼です。みなさん、よろしくお願いします。」
みさお「私は日下部　みさお、仮面ライダーブレイドだぜ。よろしくなっ！」
あやの「峰岸　あやのです。仮面ライダー龍騎を務めています。みさちゃん同様、よろしくね。」

ＸＸ「さて、ここからゆーちゃん達の挨拶があるわけなんだけど…。」
こなた「あー作者さんや、何か向こうが騒がしいんじゃがのぅ。」
ＸＸ「あ、本当だ。…ゆーちゃん達に何があったんだ？」

ゆたか「きゃあぁぁぁぁぁっ！！」
ひより「う、腕ぇぇぇぇぇっ！！」←手直にある物を投げている。
？？？「ま、待て！物を投げつけるな！！何もしないって！！」

ＸＸ「あ、あいつか。…ゆーちゃん、その腕は味方だよ。」
ひより「ええっ、これが？！」
ゆたか「本当ですか？」
ＸＸ「うん、本当だよ。」

？？？「あーびっくりした。何事かと思ったぜ。」

らきライダー全「「「腕がしゃべったぁぁぁぁぁっ！！」」」

ＸＸ「心配しないで、体は見えないだけだから、特に害はないよ。」
つかさ「どんだけ～。」
かがみ「全くもう、おどかさないでよ。」
？？？「…ごめん。」
こなた「しかし、びっくりしたねぇ。空飛ぶ腕なんて、どこかのロボット物みたいだよ。」
？？？「わかっていても、口にはしないで。」
シャイアン「で、腕がここにある、と言うことは…。」
ＸＸ「そう、もう一人来るっていう訳だ。」
こなた「あの更新が不定期の…？」
ＸＸ「そう、あいつだ。…とその前に、ゆーちゃん達の紹介がまだだったね。」こなた
「…そうだった、忘れてた！！ゆーちゃん、もう自己紹介してもいいよ。」

ゆたか「皆さん初めまして、小早川ゆたかです。仮面ライダー電王

に変身して、みんなのために頑張っています。よろしくお願いします。」
ひより「私の名は田村ひより、仮面ライダー555っす。よろしくお願いしまっス。」
みなみ「…岩崎です。仮面ライダーカブトに変身します。…よろしく。」
パティ「パトリシア・マーティンです、仮面ライダーキバにチェンジしてファイトしてます。ヨロシクデース！！」
XX「さて、これで自己紹介は…。」
???「待ってぇぇぇぇぇっ！！（泣）…先輩いいいいっ！！」
らきライダー全「「「何かが来たぁぁぁぁぁっ！！」」」
こなた「しかも、555アクセルも超えた超音速で！！」
みなみ「…生身クロック・アップ、ですね。」

～仮面ライダーデュエル・サイド～

はやと「みなさん初めまして、海藤　はやとです。仮面ライダーデュエルに変身して、みんなのために戦っています。よろしく！！」
勝舞ハンド「そして俺が切札　勝舞だ。よろしくな！！」

らきライダー全「「「誰？」」」

はやと「えぇぇぇぇっ？！誰も知らないのぉぉぉぉっ！！」
こなた「…だって、更新が全くないからみんな忘れられてるし。」
はやと「…ｏｒｚ」
こなた「冗談だよ。そんなに落ち込まないで。」
はやと「…ぐっすし。（泣）」
ひより「大丈夫っス。私がついてるから。」
はやと「…先輩いいいいっ！！（大泣）」
シャイアン「あー、一つ言っていいかな？」
はやと「？」

シャイアン「君と彼女、同い年だから。」←はやと１６才、ひより１６才。ちなみにデュエル本編では１７才

はやと「うそぉぉぉぉぉっ！！」
シャイアン「本当だ。」

はやと「うわぁぁぁぁぁんっ！！（大泣）」
かがみ「ちょっとシャイアンさん、何も泣かさなくても…！！」←鷹の目で睨みつけている＋ＲＵオーラが充満
シャイアン「…すまなかった。」
ゆたか「はやと君、ごめんなさい。でも、私達もはやと君の味方だから。」
みなみ「気を落とさないで。」
はやと「あ、ありがとう。先輩のみなさん…。」←再び大泣

ＸＸ「もう自己紹介は、これで終わりかな？」
みゆき「…あの、すみませんが。」

XX「？どうしたの？」
かがみ「もう一人、忘れてない？」
XX「…え？」

仮面ライダージョーカー「…ちょっと。（怒）」↑作者の背後に立っている。

『ユニコーン・マキシマム・ドライブ！！』

仮面ライダージョーカー「ユニコーン・ライダー・パンチ！！」

ボグシャーーー！！↑作者を殴り飛ばした

XX「ぐぼぉぉぉぉぉっ！！」

こなた「…あーあ。」
かがみ「知ーらないっと。」
つかさ「はぅ～っ、痛そう…。」
みゆき「自業自得ですね。」

XX「…。」↑返事がない。只の死体の様だ。

こなた「ま、作者さんは放って置いて。こちらにいるのが仮面ライダージョーカーこと平野　唯ちゃんだよ。」

唯「平野　唯です。みんな、よろしくね～。」

シャイアン「ま、そう言う訳で。」
こなた「時々ゲストを招いてのスピンオフ・ノベル、始まるよー！！」

らきライダー全「「「よろしくねー！！」」」

XX「よろしくね…。」←ガクッ。

ボケ　1　まずは自己紹介から。（後書き）

こなた「あー、疲れたねぇ。」
かがみ「全くね。」
ＸＸ「お疲れさん。」
こなた「出たな、ショッカー！！」
ＸＸ「誰がショッカーだ！！」

かがみ「作者さん、次回はどうするの？」
ＸＸ「次回か…。今度電王とオーズの映画が上映されるから、それ絡みでやってみるか。」
こなた「電王か、またやるんだね。」
かがみ「しかも、あのキカイダー兄弟やイナズマンも参戦するって話よ。」
こなた「ズバッと参上、ズバッと解決！！…ズバットも出るらしいし、いろんな意味で楽しい映画になりそうだよ。」
ＸＸ「次回は電王＆オーズ映画上映直前記念で、いってみよー！！」
こなた・かがみ「おーっ！！」

ボケ　2　昭和ライダーになろう！（上級生編）（前書き）

シャイアン
「今回は、本編突入前に新キャラ2人を紹介しよう。」

シャッフル
「俺が、仮面ライダーディスラッシュことシャッフル・ガードナーだ。よろしくな！」
ガラハド
「そして私が、シャイアンの父で、ガラハドと申します。」

シャイアン
「以上のキャラで、よろしくお願いしたい。」

右　落次郎
「…あいつら、俺様を無視しよって…！まぁいい。俺様は、作者の『仮面ライダーディケイド～仮面ノリダーの世界～』から出張して来た右　落次郎と申す者。よろしくな！」

※尚、今回から書き方を変更しました。前作と見比べて下さい。

ボケ　2　昭和ライダーになろう！（上級生編）

こなた
「結局、作者さんは映画版電王を見に行けなくて、ガッカリしてたみたい。しかも、上映記念のネタもアイデアがなくて没になっちゃったんだって。」
かがみ
「確かに、ネタ切れはよくあるけど、今回はネタの方は大丈夫なの？」
こなた
「…うん、大丈夫みたい。何でも、シャイアンさんのお父さんと今回のために打ち合わせをしたって。」
かがみ
「ガラハドさんと？…何か、嫌な予感がするわね…。」

シャイアン
「と言うわけで、今回のテーマは、これだ。」←指をパチンと鳴らす。

ドカドカドカッ！←真上からベルトが降ってくる

こなた
「な、何この大量のベルト？！」
かがみ
「しかも、全部昭和ライダーのじゃない！…ま、まさか！」
つかさ

「Σ本郷さん達から奪ってきたの？！」
みゆき
「どうも、そうではない様ですよ。何かこう、手作りの温かさを感じますが。」
みさお
「ひょっとして、あのおやっさんが手作りで…！」
あやの
「Σ本当に？！」
シャイアン
「今回は、全員で昭和ライダーのベルトを使って、昭和ライダーに変身してもらう。」
かがみ
「確かに面白そうだけど、このベルトは一体どうしたの？」
シャイアン
「何でも、父上が暇つぶしに作ったらしい。それを、作者が頼み込んで改良した物だそうだ。」
パラレル（前：らきライダー）全
「「「えぇぇぇぇぇっ！！」」」
こなた
「こ、これをたった1人で…！」
かがみ
「ブルーローズ家、恐るべし…！」

シャイアン
「まずは、誰から行く？」
あやの
「じ、じゃあ私から…。」
こなた
「あやのさん、頑張って！」

あやの
「う、うん…。」

かがみ
「峰岸は、1号～ライダーマンが反応なし、Xは変身できるけど威力はイマイチ。」
あやの
「アーマーゾーン！！…ううん、だめ。アマゾンは、ちょっと無理。」
こなた
「そりゃあ、あやのさんにアマゾンは似合わないよ。」
つかさ
「ストロンガーとスカイライダーも反応なし、と。」
シャイアン
「じゃあ、何なら合うんだろう？」
かがみ
「スーパー1は？」
あやの
「やってみるね。」

あやのスーパー1
「…出来ちゃった。」
かがみ
「えぇっ！無理かと思ったのに、出来ちゃったの！？」
あやのスーパー1
「うん、そうみたい。早速、これ試してみるね…。」↑炎熱ハンドにチェンジ

ボゥッ！←ストライク・ベント並の火球が発射

シャッフル（通りがかり）
「ぎゃぁぁぁぁぁっ！！」←大当たり～
あやの
「Σあっ、ごめんなさい！」

シャッフル
「何で火球が飛んできたし。」←アフロ
シャイアン
「こなた達が昭和ライダーに変身する企画をやっていてな。その関係上だ。」
シャッフル
「Σ変身の企画で俺丸焼け？！」
あやの
「まぁまぁ。」

※結局、ＺＸ・ブラック・ＲＸも反応はありませんでした。

みさお
「よーし、次いくゼ！！」
あやの
「みさちゃん、頑張って。」
みさお
「まかせとけって！」

こなた
「みさきちは、やっぱり1号・2号がダメ。」
みさお
「ま、最初から当てにはしてないけどね。…変、身！V3！！」

みさお
「あ…あるぇ？」↑変身失敗
あやの
「まぁまぁ、みさちゃん。落ち着いて。」
みさお
「くっそぅ、まだまだぁっ！！」

かがみ
「結局、ライダーマン・Xは反応なし、ZX・ブラック・RXは反応するけどパワーは落ちる、と。」
みさお
「まだまだぁっ！いくゼ！…アーマーゾーン！！」

みさおアマゾン
「やった、出来た！」
こなた
「キター、野生J「ちびすけ、ロイヤル・ストレート・スーパー大切断、受けてみる？」…すいませんでしたぁ！」
かがみ
「ブレイドと混ぜるな！」

シャイアン
「次にストロンガーは、どうだ？」
みさお
「やってみるってヴぁ！いくぞ！…変、身！ストロンガー！！」

バリバリバリバリ、ピッキーン！

みさおストロンガー
「おぉ、出来た！…何か、感じがブレイドに似ているな、これ。」
かがみ
「そうね。カブトモチーフ、電撃ビリビリ…オンドゥル語。」
あやの
「Σ柊ちゃん、オンドゥル語は関係ないわ！」
みさおストロンガー
「ひぃらぎ～。」←キングラウザー、スタンバイＯＫ
かがみ
「すいませんでしたぁ！」

こなた
「じゃあ、エレクトロファイヤーをやってみて。同じ電気系だから、使えるはずだよ。」
みさお
「そうだな。よーし、よく見ててよ！…エレクトロファイヤー！！」

バリバリバリバリッ！！

パラレル全
「「「きゃぁぁぁぁぁっ！！」」」
シャイアン
「うぉぉぉぉっ！！」
シャッフル
「ぎゃぁぁぁぁぁっ！！」

シャイアン
「一体、何があった…。」↑髪が燃えている
シャッフル
「威力ありすぎじゃね？」↑アフロモヒカン
こなた
「どうやら…。」
かがみ
「このエレクトロファイヤー…。」
つかさ
「全方位に…。」
みゆき
「放てる様ですね…。」
あやの
「すごいわ、みさちゃん…。」↑パラレル全員すすが付いただけ。
こなたに至ってはしびれた程度

かがみ
「日下部は、ストロンガー自重ね。」
みさお
「…ごめん。」

シャッフル
「じゃ、ラストだ。スーパー1をやってみて。」
みさお
「おっし、やーってやるゼ！！」
こなた
「何か、嫌な予感が…。」

みさおスーパー1
「おぉ、感じは違うけど何か力が体の中に漲ってくぅ～！！」
かがみ
「確か、峰岸もスーパー1になれたんでしょ。何か羨ましいなぁ…。」↑遠い目
あやの
「柊ちゃんったら、もぅ…。」↑顔が真っ赤
こなた
「あ、でも…。」
かがみ
「？」
こなた
「スーパー1って、5ハンドの中にエレキハンドがあったよね。」
かがみ
「え〝っ！しまった、日下部ストップストップ！！」
みさおスーパー1
「うぇ？」↑エレキハンド発動

バリバリバリバリッ！！↑またしても全方位放射

全員
「「「やっぱりいいいいっ！！」」」

こなた
「…遅かった。」↑アホ毛に火がついている
かがみ
「ま、まさか…。」↑すすが付いた程度
つかさ
「全方位が…。」↑上に同じ
みゆき
「まだ続いていたなんて…。」↑眼鏡が蒸発した
あやの
「みさちゃん、すごすぎるね…。」↑カチューシャに火がついている

※みさおストロンガーの場合、電気技全てが全方位放射型。
スーパー1の場合、エレキハンドも全方位放射型。しかも、威力は
本家の5倍。

こなた
「次は、みゆきさんだね。」
つかさ
「ゆきちゃん、頑張って。」
みゆき
「えぇ、では行きます。」

かがみ
「みゆきは、1号～Ｘにストロンガーとスカイライダー、スーパー1、ブラック、ＲＸが反応なし。…みゆきにしては珍しいわね。」
みゆき
「こればかりは、仕方ありませんね。」
こなた
「で、残ったのがアマゾンとＺＸのみ…。」
かがみ
「いや、だからってみゆきに合うとは限らないわよ。無理はしないで。」
みゆき
「ですが、せっかくですので試してみますね。」

みゆきアマゾン
「出来ました。」
かがみ
「み、みゆき！？」
つかさ
「すごーい！」
こなた
「やっぱり、狙った通りだよ。みゆきさんは響鬼だから自然系は来ると思ったからねぇ。」
かがみ
「しかしねぇ、こなた。いくらみゆきでも大切断が似合うと思う？」
こなた
「うーん。…そこまでは考えてなかったなぁ～。」
みゆき

「だぁーいせぇーつ、だぁーん！！」↑近くにあった丸太が真っ二つ

パラレル全
「「「うそぉぉぉぉぉっ！！」」」
かがみ
「み、みゆき…。」
みさお
「丸太が、スパッと…。」
つかさ
「ゆきちゃん、すっごーい！！」
こなた
「うーん、凄まじいなぁこの威力。」
あやの
「高良ちゃん、すごいね。（パチパチ↑拍手）」

みゆきＺＸ
「こちらも、無事に変身出来ました。」
かがみ
「こなた、本当に大丈夫なの？ＺＸなんかに変身して。」
こなた
「まぁ元々ＺＸは忍者ライダーと呼ばれているし、忍者は日本の文化だから問題はないと思うよ。」
みゆきＺＸ
「鍛えてますから！（シュッ）」
つかさ
「ゆきちゃん、かっこいい～！」
シャイアン
「では、少し体を動かしてみて。」
みゆきＺＸ

「はい、では…。」

ヒュンッ！！↑ＣＵ並に移動

かがみ
「え？…今、みゆきが高速移動しなかった？」
つかさ
「うん、かなり速かったけど、よく見えなかった…。」
こなた
「つかさは動体視力も鈍いからねぇ～。」↑誰だって見えないよ
つかさ
（こなちゃんのくせに～！！）

※みゆきアマゾンの場合、大切断の威力は厚さ約２０ｃｍの鉄板をも真っ二つにする。
また、ＺＸの場合、ＣＵ並の移動速度を誇る。↑鍛えているから

こなた
「さぁ、いよいよつかさの番だね。」
つかさ
「うん、うまくいくかな～。」
かがみ
「大丈夫よ、自分を信じて。」
あやの
「妹ちゃん、頑張って。」
かがみ

（い、妹ちゃんって…。ま、いいか。）

こなた
「やっぱ鬼門なのかな、1号と2号の変身って。」
シャイアン
「それはないと思うけどな。」
つかさ
「じゃ、次ね。…変、身！ブイスリャー！！」↑お約束

つかさV3
「やった、出来たよー！」
かがみ
「やったじゃない！」
みさお
「柊の妹も、やるじゃない。」
シャイアン
「じゃ、V3バリヤーをやってみて。」
つかさ
「うん。」↑V3バリヤー発生

バチバチッ！！

パラレル全
「「「え。」」」

バリバリバリバリッ！！↑何故かワ〇ドシ〇ット発射

つかさ
「ほ、ほぇ～！！」

右　落次郎（通りすがり）
「ぎゃぁぁぁぁぁっ！！」↑人工衛星になった

※ちなみに、他は全て反応なしでした。

かがみ
「私の場合は、1号・V3・ライダーマン・X・アマゾン・ストロンガー・スカイライダー・ZX・ブラック・RXが反応なし。」
こなた
「うーん、となると2号が鉄板かな？」
かがみ
「まさか。…変、身！」

かがみ2号
「あ。出来た。」
こなた
「かがみ、やりー！！」
みゆき
「かがみさん、おめでとうございます！」

つかさ
「お姉ちゃん、すごーい！！」
みさお
「柊、やったね！」
あやの
「柊ちゃん、おめでとう！」
シャイアン
「ハァァァァァッピバァァァァァスデェェェェェイ！！」
シャッフル
「どこぞかの社長か、お前は！！」

かがみスーパー1
「で、最後にこれか。」
こなた
「5ハンドのどれかを使ってみて。かがみなら、使いこなせるのがあるはずだよ。」
かがみスーパー1
「うーん、やっぱりこれかな？」←パワーハンド装備

ドヒュッ！！…ゴォォォォォォン！！←丸太が木っ端微塵

こなた
「え、今のって、バコーン・プレッシャー！？」
つかさ
「どんだけ～。」
みゆき
「…。」←固まっている

みさお
「あやのぉ…。柊が、柊が…マンジュウコワーイ。」
あやの
「みさちゃん、よしよし、よしよし。」
※かがみスーパー1の場合、パワーハンドがサゴーゾ並の高パワーを誇り、ロケットパンチも発射可能。（威力は魂ボンバーの５０分の１）

こなた
「さぁラストは私だよ！」
つかさ
「こなちゃん、頑張って！」
かがみ
「いきなりコケないでね。」
こなた
「Σかがみってば、信用してよ！」

こなた
「な、何故なんだ。２号・Ｖ３・ライダーマン・Ｘ・アマゾン・ストロンガー・スカイライダー・スーパー１・ＺＸ・ＲＸが反応なしい？！」
かがみ
「まさか、この調子だと？」
みゆき
「全種類、全滅ですか？！」
みさお
「うそぉぉぉぉぉっ？！」

あやの
「そ、そんな…。」
つかさ
「バルサミコ酢ぅ〜！」
かがみ
「いやつかさ、それは関係ないって。」
こなた
「こうなったら、1号で…ライダー、変、身！！」

こなた1号
「あ、出来たぁぁぁぁぁっ！！」
かがみ
「や、やったじゃない！」
つかさ・みゆき・みさお・あやの
「「「「素晴らしいっ！！」」」」
シャッフル
「あーあ、遂にやっちゃったよ、素晴らしいの四重奏。」
シャイアン
「ま、別にいいじゃないか。」

こなたブラック
「ついでにブラックにもなれました。」
かがみ
「黒光りしてて、かっこいいわ。」
つかさ
「うん、こなちゃんかっこいいね。」
みゆき
「確か、ブラックはベルトの内にキングストーンという石が内蔵さ

れているそうですよ。」
こなた
「じゃあ最後だし、やってみるか。…キングストーン・パワー！！」

バリバリバリバリッ！！↑全方位照射

ライダー全
「「「「うわぁぁぁぁぁぁーっ！最後の最後でぇぇぇぇぇっ！！」」」」

かがみ
「やはり…。」
つかさ
「オチは…。」
みゆき
「これでしたね…。」
みさお
「凄すぎて…。」
あやの
「もう、びっくり。」
シャイアン
「では、今回は…。」
シャッフル
「この辺でお開き、という事で。」

ドサッ！！←こなた以外全員その場で倒れた

こなたブラック
「あるぇ？」

※こなたブラックは、キングストーン・パワーが本家の１０倍強化されており、しかも全方位照射可能。

ボケ　2　昭和ライダーになろう！（上級生編）（後書き）

かがみ
「なんだかんだ言って、やっぱりこなたが一番強そうね。」
つかさ
「そうだね～。シャイアンさんと同じ主人公だしね。」
みゆき
「そうですね。あ、でも皆さんも結構強かったですよ。」
あやの
「高良ちゃんも、中々強かったよ。私も、びっくりしちゃったし。」
みさお
「ところで、次回はどうするんだ？まだ他にもいるし。」
かがみ
「うん、作者さんの話だと次回は今回の続きだそうよ。ゆたかちゃん達が昭和ライダーに挑戦させるって。」
つかさ
「何だか楽しみだね～。」

みゆき
「…あ、そう言えば泉さんはどうなさいました？」
かがみ
「今シャイアンさんが説教中よ。あれだけ広範囲に放ったから、そりゃあ怒るでしょうね。」

つかさ

「では、次回もお楽しみに〜。」

ボケ　3　昭和ライダーになろう！（下級生&その他編）

こなた
「さて、今回はゆーちゃん達下級生と、はやと君が昭和ライダーの変身に挑戦するよ。」
つかさ
「でもこなちゃん、ゆたかちゃん達本当に大丈夫？」
こなた
「大丈夫、大丈夫。ベルトをつけて変身するだけでＯＫなんだし。それに、ここは究極空間だから万が一何かあっても大丈夫だよ。」
つかさ
「はぅ～、でも何だか悪い予感が…。」

ひより
「まずは私ッスね。」
こなた
「ひよりん、頑張って！」
ひより
「大丈夫、問題ないッス！」

つかさ
「えー、1号・2号・Ｖ3・ライダーマン・アマゾン・ストロンガー・スカイライダー・ＺＸ・ブラックが反応ゼロ。」
こなた
「Ｘは反応するけど威力は…からっきし。ぶっちゃけあやのさんよ

り悪い。」
ひより
「ｏｒｚ」
つかさ
「ひよりちゃん、…ドンマイ。」
ひより
「でも、まだ負けないッス！…はぁぁ、変身！」

ひよりスーパー１
「やった、出来たッスよ！」
こなた
「やるじゃん、ひよりん！…じゃあ、早速５ハンドを使ってみてよ。」
ひよりスーパー１
「んー、それではこれでも。」←レーダーハンド装備

ボッ！…キィィ、ン。

つかさ
「どう？」
ひよりスーパー１
「…う〝っ！」
こなた
「どしたの？」
ひよりスーパー１
「は、範囲がメッサ広すぎるッス！」
つかさ

「わー、すごーい！北半球全部が写ってる！」
こなた
「Σ範囲広すぎるよ！！」

ひよりRX
「いやー、感動ッス！まさか昭和最強のライダーにまで変身出来るなんて。」
つかさ
「そーだねー。私達だってRXは誰も変身出来なかったから。」
ひより
「そーだったんスか、先輩達より先に変身出来てすまない、と言うか…。」
つかさ
「Σひ、ひよりちゃん！！あまり気にしないで！！」

こなた
「じゃあひよりん、リボルケインを出してみてよ。やっぱり、これがなけりゃあRXじゃないから。」
ひよりRX
「じゃあ、やってみるッス。…リボルケイン！」

ブウンッ！

こなた
「あ…あるぇ？」
ひよりRX
「…？」
つかさ
「これって…。」

こなた
「レーヴァテインだァー！！」
ひよりＲＸ
「な、何でぇ？！」
つかさ
「どんだけー。」

こなた
「じゃ、次にバイオライダーに変身してみてよ。」
ひよりＲＸ
「気を取り直して…えいっ！」

ひよりバイオライダー
「よしっ、成功！引き続き、バイオブレード！」

…ブゥンッ！

こなた
「…え？」
ひよりバイオライダー
「ま、またレーヴァテイン？！」
つかさ
「ど、どうして？」

※ひよりＲＸの場合、リボルケイン・バイオブレードの代わりに某魔法少女物のレーヴァテインが付属する。（中の人繋がり）また、バイオライダーの液体化能力も大幅強化されている。

こなた
「さぁ次は、パティちゃんだよ。がんばって！」
パティ
「オーケー！マカせてクダサーイ！」

こなた
「えー、パティちゃんの場合、1号～ライダーマンは反応なし。X、アマゾンとスカイライダー、ブラック・RXも反応なし。」
パティ
「オーマイガー…。」
こなた
「パティちゃん、ガンバ。」
パティ
「デモ、わたしはマケマセン！…変身！ストロンガー！！」

パティストロンガー
「ヤリました！」
こなた
「やるじゃん、パティちゃん！」
つかさ
「すっごーい！」
パティストロンガー
「サンキュー！」
ひより
「じゃ電気技は、何か使えそうなのある？少しやってみて。」

パティ
「オーライ、ツカってミマス！…エレクトロ・ファイヤー！」

バチバチバチバチッ！！

パラレル全
「「「きゃぁぁぁぁぁっ！！」」」

こなた
「やっぱり…。」←アホ毛炎上再び
つかさ
「やると思ってた…。」←リボンが燃えている
ひより
「これが全方位放射…。めっさ最強ッス。」←眼鏡があらぬ方向にねじ曲がっている
パティ
「ソーリィー…。」

パティZX
「コレがニンジャライダーなのデスカ。イッツ・ワンダフォー！」
こなた
「よかった、パティちゃんに気に入ってもらえて。」
つかさ
「うん、そうだね。」

ひより
「そう言えば、前回みゆき先輩がクロック・アップ出来たらしいから、パティちゃんにも出来るんじゃない？」
パティＺＸ
「まぁサスガにムリデスネ。…でもコレならデキルかも！」↑ＺＸシューティング・スターを取り出して投げる

右　落次郎（散歩中）
「ぎにゃぁぁぁぁぁっ！！」↑脳天に命中

パティＺＸ
「オー、ソーリィー！」
こなた
「あ、あの人は気にしないで。むしろバンバン投げちゃって。」
落次郎
「Σ何気に酷いな、オイ！！」

こなた
「さて次は、みなみちゃんの番だよ。」
みなみ
「…では、いきます。」
つかさ
「みなみちゃん、頑張ってね。」

こなた
「みなみちゃんの場合、１号～ライダーマン、アマゾン・ストロンガー・スーパー１・ＺＸ・ブラック・ＲＸが反応なし。…誰もライダーマンに反応しないのがおかしいね。」
みなみ
「…ｏｒｚ」
ひより
「まぁ、これからッス。ドンマイ、ドンマイ。」
みなみ
「…気を取り直して、スカァーイ、変、身！！」

みなみスカイライダー
「…出来た。」
こなた
「やったー！やれば出来るじゃない！」
ひより
「そうッスね！…さて、問題は空を飛べるかどうかだけど、大丈夫ッスね。」
みなみ
「では、やってみます。…セイリング・ジャンプ！」↑目の前から消えた
こなた
「…え？」
つかさ
「Σクロック・アップ？！」
パティ
「オー！イッツ・ア・アメイジング！！」

※只今超高速で飛行中。

ひより
「Σちょw待って！私の目では速すぎて捉えられないッス！」
こなた
「私だって無理だよ～！」
つかさ
「はぅ～、目が、目が…。」↑目を回している
こなた
「さすがみゆきさんの近所に住んでいるみなみちゃん、クロック・アップも互角とは…！」
ひより
「Σいや、それ関係ないッス！！」

みなみX
「…こちらも、出来ました。」
こなた
「さすがみなみちゃん、Xも様になっているね～。」
みなみX
「ありがとうございます。」
つかさ
「みなみちゃん、ライドルを使ってみたら？きっと、よく似合うと思うけど。」
みなみX
「では。…ライドル・スティック！！」

ブゥンッ！！

こなた
「…え？」

ひより
「何、この長さ…。」
つかさ
「4、5mはあるよ。」
パティ
「ライドル・ポールデスカ？セマいトコロではタタカえませんネ…。」
みなみ
「一体、これは…？」

※みなみXの場合、ライドルの出力と長さ（笑）が向上、全体の性能も本家より10％アップしている。

こなた
「さぁ出番ざますよ、ゆーちゃん！」
ゆたか
「うーん、田村さんやパティちゃんみたいに出来るかな…。」
こなた
「大丈夫、ゆーちゃんなら出来るって。」
みなみ
「…自信を持って。」
ゆたか
「あ、ありがとう、みなみちゃん。では、いきます！！」

こなた
「えー、1号～V3までは反応なし、X・アマゾン・ストロンガー

は反応するものの、力は本家の５０％以下。」
ゆたか
「ｏｒｚ」
つかさ
「ゆたかちゃん、落ち着いて。」
ゆたか
「はい。…では、これをやってみます。」

ゆたかライダーマン
「…出来ちゃった。」
パラレル全
「「「えぇぇぇぇぇっ！！」」」
こなた
「うっそ、ゆーちゃんがライダーマン、だと？」
ひより
「マジッスかぁぁぁぁぁっ！！」
つかさ
「すっごーい！！」
みなみ
「…おめでとう、ゆたか。」←少し照れながら
ゆたかライダーマン
「あ、ありがとう。」
こなた
「じゃあ早速だけど、カセット・アームを使ってみてよ。」
シャイアン
「ライダーマンと言えば、アタッチメントだからな。」←松葉杖をついて登場
こなた・つかさ

「「うわっ、びっくりしたぁ～！」」
シャイアン
「あ、すまない。おどろかせてしまって。」
ひより
「あーおどろいたぁ、いきなり現れるから何事かと思ったッス。」
パティ
「それにしても、イッタイどこにイッテタのデスカ？」
シャイアン
「すまない、しばらくベッドで横になっていた。かがみ達も今治療中で、今回は無理だそうだ。」
こなた
「…私のせいだ…。ｏｒｚ」

ゆたかライダーマン
「と、とにかくカセット・アームを使ってみるね。」
パティ
「まず、ドリルアームをツカッテみてクダサーイ。」
ゆたかライダーマン
「これね。」↑ドリルアームを装備、ただし何かが垂れ下がるつかさ
「…ん？何これ？」
ひより
「…コンセント？」
ゆたかライダーマン
「えっ、何でコンセントが？」
シャイアン
「今思い出したが、ライダーマンのドリルアームは電源がないと動かないそうだ。」

こなた
「Σ何それ！！」
ひより
「Σドリルアームを使う意味ないッス！！」
みなみ
「そしてここには、電源がない…。」
ゆたかライダーマン
「…ｏｒｚ」

ゆたか
「結局、パワーアーム以外は難しくて使いこなせませんでした。」
こなた
「それでも私達には（ライダーマンに）反応しなかった事を考えると大した進歩だよ、ゆーちゃん。」
つかさ
「そだねー。」

※この後、他のベルトを試してみたものの反応はありませんでした。

こなた
「さて、次は凡骨の番ね。」
はやと
「Σ何気に扱いが酷すぎない？先輩！！」
こなた

「冗談だよ。早くやって。」↑何気に冷たい視線
つかさ
「こなちゃん、ちょっと冷たすぎるよぉ～。」
ひより
「あ、扱いがウヴァ並…。」
はやと
「先輩ぃぃぃぃっ！！（泣）」
こなた
「ま、そんな事は置いといて。…はやと君、泣きすぎだよ～。だから冗談だって言ってるのに～。」
はやと
「うわぁぁぁぁぁんっ！！（泣）」
ゆたか
「お姉ちゃん！！」↑リュウガのデッキ、スタンバイ
こなた
「…すいませんでしたぁ！！」

はやと
「僕の場合、１号～Ｖ３までは先輩達と同じで、ＲＸには反応しましたが、能力は発動しませんでした。」
こなた
「まさか、ブラックまで反応したとは…！」
つかさ
「それだけ汎用性が高いって事かな？」
ひより
「そうでなければ、説明がつかないッス。」
みなみ
「すごい…！」

ゆたか
「はやと君、すごーい！」
はやとブラック
「ありがとうございます、先輩。」
こなた
「あ、でもキングストーン・フラッシュはやめてね。」←前回参照
つかさ
「絶対使わないでね。」
はやと
「わかってますって。…では少し物まねをしてもいいですか？」
こなた
「？」

はやと
「トライオー！」←両拳をぶつけた

カッ！！←何故かキングストーン・フラッシュ発動

パラレル全
「「「うわぁぁぁぁぁっ！やってもうたぁぁぁぁぁ！！」」」

こなた

「だから、やめてって言ったのに…。」↑髪型がポルナレフ
はやと
「…ごめんなさい。」↑丸コゲ
つかさ
「みんな、大丈夫？」↑リボンが燃えている
パティ
「オー、イッツ・ア・アメイジング…。」↑黒コゲ
ひより
「はやと君、とりあえずブラックは（ＲＸも含めて）自重ね…。」
↑髪型が遊戯王風になっている
はやと
「…はーい。」

※ちなみに、はやとがＲＸに変身した場合リボルケインの威力が１０％アップし、ロボ・バイオの能力も本家より２０％アップする。
（但し、ベルトに対応した場合）

こなた
「では、今回はここまで…。ゲフン。」↑口から煙

※ちなみに、シャイアン・ゆたか・みなみは発動前に落次郎を無理矢理呼び寄せ、生身ガード・ベントをやらせる事により３人揃って助かりました。

落次郎

「くそ、あいつら…覚えてろ！」←オルフェノク並に砂化

ボケ　3　昭和ライダーになろう！（下級生&その他編）（後書き）

こなた
「ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい…（以後１００行続く）」↑退院したかがみ達に土下座
シャイアン
「かがみ、もういい加減に許してやったらどうだ？」
かがみ
「はぁー…。全く、しょうがないな。こなた、今後二度と同じ事はしないでね。」
こなた
「…うん。」

※この後こなたは、かがみ・みゆき・あやの・みさお・シャッフルに手製のクレープを振る舞いました。

次回予告

あきら
「白石ぃぃぃぃぃ！！」
みのる
「ギャァァァァァッ！！」

ディスラッシュ
「こいつぁ、強敵だ…！！」
あきらギルス
「なかなかやるな、あのバーコードロード！！」

あきらギルス
「あばばばばばばばばばばばぁっ！！」
トライオー
「何で私まで？！…ゴフゥッ！！」
つかさ
「こなちゃぁぁぁぁぁんっ！！」

ボケ　4

「凄絶！あきらＶＳシャッフル　～絶望が私のゴールだ～」

みのる
「誰か、あきら様を止めてくれ…ガクッ。」

ボケ　４　凄絶！あきらＶＳシャッフル　～絶望が私のゴールだ～

※本日は、こなた・つかさ以外のパラレルライダーと落次郎・はやと・唯は夏休みを利用して海へ行きました。（ちなみに今回シャイアンは夏風邪をひいて寝ています）

こなた
「はぁー、まさか宿題がはかどらない状態で留守番をさせられるなんて、…不幸だ。ｏｒｚ」←数学を勉強中
シャッフル
「バカ言うな。朝までネトゲやってる方が悪い。」
こなた
「うぅ～、行きたかったなぁ、海…。」←未練タラタラ
シャッフル
「まぁ、諦めろ。それよりも、そろそろつかさが冷や麦を持ってくるから、頑張れ！」←そろそろ正午
こなた
「おのれ宿題ぃぃぃぃ！！」
シャッフル
「どこぞかのナルシストみたいな事は言わない！」

※冷や麦、到着

つかさ
「…ところで、こなちゃん。宿題、進んでる？」←冷や麦を食べな

がら
こなた
「いんや、さっぱり。」←冷や麦を気怠く食べている
シャッフル
「何なら、俺が教えてやろうか？」
こなた
「えー、出来るの？」←疑りの眼差し
シャッフル
「バーロー、これでも俺は大学生だ！教える事ぐらいは出来るわい！」←パリ大学の2年生。実はシャイアンもパリ大学の学生です
こなた
「ところで思ったけど、何でつかさまで残っているの？」
つかさ
「私は、こなちゃんと同じ理由で、寝すぎてしまって勉強が進まなくて…お恥ずかしながら。」←みゆきの真似で
シャッフル
「ま、つかさの場合は仕方ないわな。」
こなた
「そだねー。」

※昼食後、再び勉強再開。

ドドドドドドドド…

こなた
「ん？何、この地響き？」
つかさ
「何かこっちへ来てるよ？」
シャッフル
「ん～？誰かを追いかけてるぞ、ありゃ。」←双眼鏡で覗いている

あきら
「白石ぃぃぃぃぃ！！」
みのる
「ギャァァァァァッ！！」

こなた
「あれって、セバスチャン！？」
つかさ
「そうだよ、こなちゃん！」

※セバスチャンとは、アニメ版らき☆すたにおける、白石　みのるのニック・ネームです。

こなた
「しかも、追いかけてるのって、あきら様！？」
つかさ
「そうだよ、あきら様だよぉ！…でも、何でセバスチャンを追いかけてるんだろう？」
こなた
「まさか、あきら様の弁当を間違えて食べたから、とか。」
シャッフル
「いや、それはないと思うが…。」

あきら
「戦え…戦えぇぇぇぇぇ！！」
シャッフル
「おいおい、オーディンみたいなセリフが飛び出したぞ！一体何があった！」
みのる
「実は朝からあの調子で…。」←ようやく助け出された
こなた
「朝から？」
みのる
「えぇ、スタッフ・ディレクター構わず戦いを挑んでいて、止めようもないんです…。」
つかさ
「どんだけー。」

あきら
「うぅぅぅぅ…、変身！！」

※あきら様はギルスに変身しました。

こなた
「うわあぁぁぁぁぁ、あきらギルスキター！！」
つかさ
「でもこなちゃん、今日のあきら様、様子がおかしいよね…？」
こなた
「うん、そだねぇ。」
シャッフル
「何でぇ、あんな桃ちょびれのチビ。何にも怖くないぜ。」
こなた
「Σシャッフルさん、挑発しちゃダメー！？」
みのる
「あぁ、もう知りませんよ！！」

あきらギルス
「…あ　？」↑背後に不動明王ゴットゥーザオーラ
シャッフル
「凄まじいオーラだな…マスカ・レイド！」
『マスク・ライド　ディスラッシュ！！』
ディスラッシュ
「全力で逝くぜ！！」↑背後に大天使ディケイドオーラ（ただし激情態）
こなた
「Σ何あの恐ろしいオーラ！！」

つかさ
「ディケイドの…完全体？」
こなた
「そんな事を言ってないで、ギルスの弱点が何か教えて？私が変身して止めるから！」
つかさ
「うん、簡単だよこなちゃん。…しょうがないなぁ、私が教えｔ…はぅぅぅぅ！！」↑グリコのポーズで２５ｍも吹き飛んだ
こなた
「Σつかさぁぁぁぁぁ！！」

あきらギルス
「はぁ、はぁ、はぁ…！」↑右腕にゴリバゴーン、左腕にタジャスピナーを装備。ちなみに、つかさを吹き飛ばしたのは右腕のゴリバゴーン

こなた
「あ…あれって、確かオーズのコアメダルの…！！まさか、あきら様がグリード化！？」
シャッフル
「わからねぇ　…しかし、何とか止めないとな！！」
あきらギルス
「うがぁぁぁ…！」↑更に腕が４本生えてきた
こなた
「Σうぇぇぇぇぇっ！？」
シャイアン
「マジで何者なんだ、あいつ！！」

こなた
「仕方ないなぁ、…トライオー！！」

あきらギルス
「そうだ…戦え、戦えぇぇぇぇぇ！！」
シャッフル
「言われなくとも、やってやるぜ！！」

『アタック・ライド　スラッシュ！』

トライオー
「はっ！！」↑右ハイキック
あきらギルス
「ふんっ！！」↑片手で止めた
ディスラッシュ
「すきありっ！！」↑ソードライバーを構えて左から突撃
あきらギルス
「甘いっ！」↑左腕がカマキリソードに変化、防がれた
トライオー
「Σえぇぇぇぇぇ！！」
ディスラッシュ
「あいつの体の構造は、どうなっているんだ！」↑ソードライバーで防御しながら
こなた
「ひょっとしたら、誰かがコアメダルをあきら様に放り込んだんじゃ…！」
シャッフル
「おいおい、マジかよ！」
つかさ
「でも、ショックを与えればメダルは落ちるんじゃ…。」↑復活
トライオー
「あっ、言ってる間に腕が大変な事に！？」

あきらギルス
「うがぁぁぁぁぁ…！！」←トラクロー・ウナギムチが右腕に追加、更に残った左腕がエクシード・ギルス化した

トライオー
「Σな、何なの！あのアシュラマン！！」
つかさ
「いくら何でもあきら様、やりすぎだよ～！シャッフルさん、早くあきら…様を…。」

ディスラッシュ
「やろぉ…！」←背後に暗黒破壊神アナゴ・ディケイド降臨

トライオー
「ガクガクブルブル」←怖くて震えている
つかさ
「ガクガクブルブル」←言わずもがな

※2人は再び戦闘を開始し、トライオーとつかさは震えています

ディスラッシュ

「こいつぁ強敵だ…！！」
あきらギルス
「なかなかやるな、あのバーコードロード！！」
ディスラッシュ
「アンノウンと一緒にすんなぁぁぁぁぁっ！！」←怒りの一撃

バキィッ、ジャラジャラ…。←胸パーツのコアメダルが全て落ちた。

つかさ
「あ、メダルが。」
トライオー
「つかさ、回収しにいくよ！」
つかさ
「うん！」

※回収中

つかさ・トライオー
「「こいつぁ儲けたな！」」←アンク風に

ディスラッシュ
「いい加減諦めてスタジオに戻れぃ！」
あきらギルス
「まだまだぁっ！」

ディスラッシュ
「ん？」

あきらギルス
「はぁっ！！」↑ギルスヒールクロー＋タコレッグ展開＋背後に暗黒破壊神アナザーアギトオーラ
トライオー
「…へ？」

あきらギルス
「あばばばばばばばばばばばばばぁっ！！」↑暗黒破壊神ヒールクロータコレッグ乱舞
ディスラッシュ
「ブルァァァァッ！！」↑全弾命中
トライオー
「シャッフルさぁぁぁぁぁん！！」
つかさ
「あ、こなちゃん、危ない！」

あきらトライオー
「あばばばばばばばばばばばばばぁっ！！」
↑再び乱舞
トライオー
「何で私まで？！…ゴフゥッ！！」↑クリティカルヒット
つかさ
「こなちゃぁぁぁぁぁんっ！！」

つかさ
「よくもこなちゃんを…！！」←暗黒破壊神オーラ
あきら
「…ん？」

つかさ
「変、身っ！！」←照井　竜風に

アギトＵＢ
「覚悟は、いい？」
あきらギルス
「さぁこい、全てを吹き飛ばしてやる！」

ディスラッシュ
「つかさ、俺に任せろ。こなたを頼む。」
アギトＵＢ
「えっ、シャッフルさん？！でもどうして！？」
ディスラッシュ
「どうせ一度売った喧嘩だ、最後まで付き合うのが筋ってもんさね。」←カードを装填

『アタック・ライド　ストライク・ベント！』←ドラグクロー装備

ディスラッシュ
「食らえぇい！！」←昇竜突破
あきらギルス
「はぁっ！！」←クワガタコアの雷撃で相殺
ディスラッシュ
「なら、次はこれだ！」

『アタック・ライド　音撃棒・烈火！』←音撃棒を装備
ディスラッシュ
「これで、どうよ！！」←火弾連射
あきらギルス
「うぉぉぉぉっ！！」←シャチ・コアの水流で相殺
ディスラッシュ
「…これじゃ埒が開かないぜ。」
アギトＵＢ
「どうするの？このままじゃあきら様が…。」

ディスラッシュ
「ん？そうだ、いい手がある！！」
トライオー
「え、何々？」←復活
ディスラッシュ
「実は、おやっさんからテストで貸し与えられた物があるんだ。そいつを使ってみよう。」
トライオー
「そいつって？」
ディスラッシュ
「これだ、テスト用ダブルドライバー。丁度２人分あるから、変身を解いて装着してくれ。」
アギトＵＢ
「で、シャッフルさんは？」
ディスラッシュ

「俺は、あいつを喰い止める！頼むぞ！」
トライオー・アギトＵＢ
「「うん！！」」

※２人は変身を解除し、ダブルドライバーを装備しました。

こなた
「じゃ、いくよ。」
つかさ
「うん。」

『タトバ！』
『ガタキリバ！』

こなた
「つか、何じゃこのメモリー！」
つかさ
「でも、やってみようよ！」
こなた
「何か気が進まないけど…。」

「「変身！！」」

『ガタキリバ！タトバ！』～♪～♪

オーズ（？）・ＧＴｔ
「「さぁ、お前のパンツを数えろ！！（赤面）」」

こなた（Ｔサイド）
「嫌だ、こんなセリフ！！（泣）」
つかさ（Ｇサイド）
「私もだよ～！（泣）」
こなた
「けど、折角だからやってみるか…。（ため息）」←カマキリソード＆トラクロー展開

ディスラッシュ
「おぉ、テストは成功だ！」
あきらギルス
「…？」
オーズ（？）ＧＴ
「「ありゃぁぁぁぁぁっ！！」」←めった斬り
あきらギルス
「ぎゃぁぁぁぁぁ！！」
ディスラッシュ
「よし、効果はバッチリだ！仕上げといくぞ、ご両人！！」
オーズ（？）・ＧＴｔ
「「ＯＫ！！」」

『ファイナル・アタック・ライド　ディ・ディ・ディ・ディ・ディスラッシュ！！』
『タトバ　マキシマム・ドライブ！！』
ディスラッシュ・オーズ（？）ＧＴｔ
「「墜ちろぉぉぉぉぉ！！」」←ディメンジョン・スラッシュ＆タトバ・エクストリーム

※タトバ・エクストリームとは、Wのジョーカー・エクストリームのオーズ（？）版です。

チュドォォォォォ…ン↑命中&残りメダル全排出

あきら
「…ふにゅ～？」
みのる
「あ、あきら様！？…よかったー！！」
こなた
「しっかし、何故あきら様にコアメダルが…？」
あきら
「そう言えば…（黒モード）スタジオから帰る途中で、白衣のおっさんが何か投げ込んだのを覚えてるなぁ…。」
つかさ
「まさか、それって…。」みのる
「コアメダル？」
シャッフル
「らしいな。それで、そのおっさん、肩に人形を乗せていなかったか？」
あきら
「あーそう言えば、薄気味悪い人形を乗せてたねぇ。」

3人
「「「ドクター真木だァァァァァ！！」」」

※この後、ドクター真木は暗黒神オーラ全開の3人に鉄拳制裁を受け、ムッコロされました。

こなた
「今日は戦いに巻き込まれ…とばっちりを喰らい…妙なメモリを使われ…。」
つかさ
「本当に嫌だ…。」

こなた・つかさ
「「絶望が…私のゴールだ…！！（いろんな意味で）」」

ボケ　４　凄絶！あきらＶＳシャッフル　～絶望が私のゴールだ～（後書き）

※翌日、みんなが海から帰ってきました。

かがみ
「へぇー、そんな事があったんだ。」
こなた
「みんなはいいよなぁ…。勉強が早く終わって。」
つかさ
「どうせ私達なんか…。」
かがみ
「（まずい、こなたとつかさが地獄兄弟化してるわ）じゃあ、明日私達が遊んでいた海に行ってらっしゃい。…ただし、旅館も民宿も予約がいっぱいだから、泊まるならみゆきの家に泊まっていって。」
みゆき
「私のところでよろしければ…。」
こなた
「そだねー、少し頭を冷やしてくるよ。」

※更に翌日こなた・つかさ・シャッフルは海に行きましたが、仮面ライダーアビスに勝負を挑まれたり、水のエルと乱闘戦になったり、ライオンクラゲヤミーに襲われたりと、海水浴を満喫出来ませんでした。

次回予告

かがみ
「これがオーズメモリー、ねぇ…。」

オーズGS（みゆき・みなみ）
「「さぁ、お前のパンツを数えろ！！（赤面）」」

ゆたか
「わ、私も言うんですか？！」
シャイアン
「自動でしゃべるから、仕方がない…。」
みさお
「マリオシーケンサーか、このメモリーは！！」

ボケ　5　何故？オーズメモリー　～さぁ、お前のパンツを数えろ（笑）～

みさお
「何、このタイトル？」
あやの
「恥ずかしいよ、すごく。」

ボケ　5　何故？オーズメモリー　～さぁ、お前のパンツを数えろ（笑）～

※今回、こなた・つかさ・シャッフルの3人は、前回のダメージが大きすぎたため仮面ライダールゥの世界で養生しています。

かがみ
「はぁ…やはりこなた達も連れて行った方がよかったかも。」
みゆき
「仕方がありませんね。もう過ぎた事ですし。」

みさお
「おーい、柊ぃ。博士がこれをテストしてくれって言ってたよ。」
↑メモリーの入ったカバン持参
かがみ
「ん？何このメモリー？」↑カバンを開けて
みゆき
「これが、噂のオーズメモリーですね。」
かがみ
「これがオーズメモリー、ねぇ…。」↑メモリーを手にして
みさお
「ねぇ柊、試しにどれか使ってみる？」
かがみ
「うーん、そうねぇ…まずは、どれがどうなっているのかが知りたいわ。」

ガラハド
「…なるほどね、それで私を呼んだと。」←徹夜明けでまだ眠い
かがみ
「お休み中のところ本当にすみません。」
ガラハド
「まぁ別にいいけどね。…一応メモリーについては以下の通りだ。」

・メモリーの種類

1：ガタキリバ（ソウルサイド）

2：タジャドル（ソウルサイド）

3：ラトラーター（ソウルサイド）

4：タトバ（ボディサイド）

5：サゴーゾ（ボディサイド）

6：シャウタ（ボディサイド）

・メモリーの使用条件

ソウルサイド：知力があり、戦術に長けている者。

ボディサイド：体力があり、持久戦に長けている者。

かがみ
「そう考えると、何となくWに似ているわね。」
みゆき
「そうですね。」
ガラハド
「百聞は一見にしかず、まずはやってみよう！！」

ゆたか
「え、新しいメモリーのテスト、ですか？」
みなみ
「…何となく、悪い予感がします。」
かがみ
「まぁ、そう言わずに。」

みゆき
「では、私はガタキリバで。」
みなみ
「私は、シャウタを。」
ゆたか
「みなみちゃん、頑張って！！」

『ガタキリバ！』
『シャウタ！』
「「変身！！」」

『ガタキリバ・シャウタ！！』～♪～♪～♪←みゆきの体はかがみが支えています

オーズ・GS（みゆき・みなみ）
「「さぁ、お前のパンツを数えろ！！（赤面）」」

オーズSサイド
「…な、何ですか、このセリフ。（赤面）」
オーズGサイド
「も、ものすごく恥ずかしいです、あぁ…どうしましょう。（オロオロ）」←息が止まりそう

ガラハド
「あ、言い忘れたけど決めゼリフは自動的に出てくるから、気をつけて。」
かがみ
（いや、ダメじゃん！！）←呆然としている

※結局みゆきは変身解除後、あまりの恥ずかしさに気を失ってしまったため、かがみが看病しています。

ゆたか
「みなみちゃん、大丈夫？」
みなみ
「私は大丈夫だけど、精神ダメージが…。」←さすがにボドボド

※実は、セリフによっては（恥ずかしさによる）精神ダメージも加わります。こなたとつかさも、これにやられた様です。

みさお
「これ、セリフの部分だけ直したら？クールちゃん、ダメージがハンパねぇし。」
ガラハド
「そうだなぁ。…でも、違う人ならセリフも変わるんじゃないかな？（じー）」↑流し目
みさお
「…何故そこで私を見る？」
かがみ
「やはりここは…。（じとー）」
みさお
「Σ柊まで？！」

あやの
「何で、こうなったの…？」↑ちょっと怒っている
みさお
「ごめんね、あやの。」↑ガクガクブルブル

『タジャドル！』
『サゴーゾ！』
「「変身！！」」
『タジャドル・サゴーゾ！！』～♪～♪～♪

オーズ・ＴａＳａ（みさお・あやの）
「「さぁ、お前のクッキーを数えろ！！」」

オーズ・Ｔａサイド
「あれ？恥ずかしいセリフじゃない…。」
オーズ・Ｓａサイド
「よかったー！これが恥ずかしいセリフだったら後が怖くて。」
かがみ
（峰岸の事ね、わかるわかる。）

シャイアン
「父上がとんでもない物を作ってしまい、申し訳ない…。」↑夏風邪から復帰
かがみ
「シャイアンさん、謝らなくてもいいんですよ。」
みゆき
「私達の方は気にしないで下さい。」↑でもあまり無理は出来ないシャイアン
「父上の不始末は私の不始末！ここから先は私が全て引き受ける！！」
かがみ・みゆき
「「Σ大丈夫なんですか！？」」
みさお
「これ、人によっては大ダメージも…！」

シャイアン
「大丈夫だ、問題ない。」
みゆき
（本当に大丈夫でしょうか…。）

シャイアン
「この中で、まだ試してない人は…？」
ゆたか
「私です。」
かがみ
「あ、待って。」
シャイアン
「どうした？」
かがみ
「シャイアンさん、決めセリフは自動的に出てくるから注意して。ゆたかちゃんも、そこに気をつけてね。」
ゆたか
「わ、私も言うんですか？！」↑メモリーを受け取ってから
シャイアン
「自動でしゃべるから、仕方がない…。」
みさお
「マリオシーケンサーか、このメモリーは！！」↑今頃突っ込んでいる

ゆたか
「腹を括りました。」↑完全諦めムード
シャイアン

「では、いくぞ。」

『ラトラーター！』
『タトバ！』

「「変身！！」」

『ラトラーター・タトバ！！』～♪～♪～♪

オーズ・ＲＴａ（シャイアン・ゆたか）
「「さぁ、お前の騎士道を数えろ！！」」

オーズＴａサイド
「お、これは綺麗に決まったな。」
オーズＲサイド
「はい！」←どこか嬉しそう

みなみ
「では、いきます。ゆたか、いけそう？」
ゆたか
「うん。みなみちゃんと一緒なら、大丈夫かも。」←少し自信がついた

『タジャドル！』
『タトバ！』
「「変身！！」」
『タジャドル・タトバ！！』～♪～♪～♪

オーズ・ＴａＴｔ（ゆたか・みなみ）
「「さぁ、お前のパンツを数えろ！！（赤面）」」

かがみ
「…あちゃ～、やってもうた！！」
オーズＴｔサイド
「…やっぱり。」←すぐに慣れた
オーズＴａサイド
「あ、あぁ、ど、どうしよう！！は、恥ずかしいよぉ！！？（赤面）」
あやの
「これ、確実に変質者のセリフだよ。」←顔が真っ赤
みさお
「…確かにねぇ。」←腕組みしながら

城戸　真司
「…何で俺まで？」←博士のところへ取材に来ていた
秋山　蓮

「巻き添えは、ごめんだ。」↑何かあると困るからついて来た
かがみ
（いくらテストのためだからって、オリジン龍騎の方まで招かなくても…。）
ゆたか
「ごめんなさい、ごめんなさい、ごめんなさい…」↑ひたすら謝っている
ガラハド
「すまない、どうしてもデータがほしいんで。…ご協力ありがとうございます。」
城戸
「ま、俺は別に構わないんだけどな。どうする、蓮？」
秋山
「…仕方ないか。」

『ラトラーター！』
『シャウタ！』

「「変身！！」」

『ラトラーター・シャウタ！！』～♪～♪～♪

オーズ・ＲＳ（城戸・秋山）
「「さぁ、お前のパンツを数えろ！！」」

オーズＳサイド（城戸）
「…ヲイ」
オーズＲサイド（秋山）
「何だ、この決めゼリフは！！」
城戸
「（強制変身解除）…ムッコロス！」←デッキ装備
秋山
「おい待て落ち着け城戸、相川　始が乗り移ってないか！？」
みなみ
「私も、お手伝いします。」←カブゼク装備
ゆたか
「みなみちゃん、落ち着いて！！」

剣崎　一真（２００９年版）
「ここか、祭りの場所は。」←連れてこられた
橘　朔也
「ナズェオデマデ？」←巻き添え
ゆたか
「ごめんなさい…本当に、ごめんなさい（泣）」←平謝り
剣崎
「気にしなくてもいいよ、うん。」←サムズアップ
みなみ・ゆたか
「……。」←照れながらサムズアップ
橘
「ゴンバボドザゾグズロギギ、ザジャブザジレジョグ。（そんな事はどうでもいい、早く始めよう。）」←何故かグロンギ語
パラレル全
「「「橘さん、ここではリントの言葉で話して！！」」」

『ガタキリバ！』
『サゴーゾ！』
「「変身！！」」
『ガタキリバ・サゴーゾ！！』～♪～♪～♪

オーズ・GSa（橘・剣崎）
「「さぁ、お前のオンドゥル（パスタ）を数えろ！！」」

ゆたか
「橘さん、お腹がすいていますか？」
オーズGサイド
「あぁ、少しだけな。」←実は2日間何も飲まず食わず

※この後2人は、あやの達の作ったパスタを食べて帰って行きました。もちろん、城戸と秋山の両人も、取材後パスタをいただきご満悦でした。

かがみ
「さて、トリは私がやるのね。」
みゆき
「あの、お心遣いはよろしいのですが…。」
かがみ

「どうしたの？」
みゆき
「シャイアンさんが隅でいじけてますけれど、いかがなさいます？」

シャイアン
「ｏｒｚ」

かがみ
「あー、ごめん。すっかり忘れてたわ。」
ガラハド
「ヲイ。」

かがみ
「ではいきますよ！」
シャイアン
「…あぁ。」

『ラトラーター！』
『サゴーゾ！』
「「変身！！」」
『ラトラーター・サゴーゾ！！』～♪～♪～♪

オーズ・ＲＳａ（かがみ・シャイアン）
「「さぁ、お前のパンツを数えろ！！（赤面）」」

オーズ・Ｓａサイド
「父上、やはり何とかなりませんか？このセリフ…。」
オーズ・Ｒサイド
「本当にね。…言ってて恥ずかしいわ、これ。」

みさお・あやの
「「ところで、博士。」」
ガラハド
「ん？どうした？」
あやの
「思ったのですが、ロストドライバーでテストした方がよかったのでは…。」
みさお
「そうだぜ、そっちの方が手っ取り早かったし、赤っ恥かかずにすんだし。」
ガラハド
「…すまん、ロストドライバーを買う予算がなかった。」←メモリー開発で手一杯
みさお・あやの
「「えぇぇぇぇぇ！！」」

※ちなみに、今回ひより・パティ・落次郎・唯・はやとは、こなたとつかさ、シャッフルの看病のため仮面ライダールゥの世界にいます。

ボケ　5　何故？オーズメモリー　～さぁ、お前のパンツを数えろ（笑）～（後

※あれから1週間後、こなたとつかさ、シャッフルが養生から帰ってきました。

こなた
「本当ひどい目にあったね～。」
つかさ
「そうだね、こなちゃん。生きた心地がしなかったよ～！」
シャッフル
「特に水のエル…あいつだけは許せねぇ！！」←客を巻き込んで素手で殴り合っていた（ｎｏｔ変身）

かがみ
「こなた、つかさ、シャッフルさん。本っ当にゴメン！！」←土下座
こなた
「うぉっ！？いきなりどうしたの？かがみ！！」
つかさ
「あ、頭を上げて、お姉ちゃん。元々私達にも責任があったから。」
シャッフル
「そうだぜ、それにもう過ぎた事だ、気にしちゃいないぜ！！」

※その後、みゆきやあやの達が間に入り、無事に仲直り（？）出来ました。

次回予告
（脳内ＢＧＭ：『仮面ライダークウガ』より『開幕』）

ガラハド
「よし、みんなで裏世界のライダーに変身してみよう！！」
かがみ
「いやいやいやいや！！」

かがみミラージュ
「何だろう、この違和感…。」
こなた
「ま、アルティメットにもなれるから、無難じゃない？」

平沢５５５
「…変身出来ちゃった。」澪
「うそっ！？マジで！！」律
「…唯って、オルフェノク？」

ボケ　６

「裏世界ライダー変身事情　～何でこうなるの？～」

はやと

「それより、僕の方の連載はどうなるの？」←滝の涙

勝舞ハンド

「ま、気長に待とう。」←諦めムード

ボケ　6　裏世界ライダー変身事情　～何でこうなるの？～

こなた
「さて、裏世界の話も大分進んでいる様だけど、私達はまだ『あれ』をやってない事に気づいた！！」
かがみ
「で、『あれ』って何？」
こなた
「私達は、裏世界のライダーになっていない事だぁぁぁ！！」
かがみ
「アホかぁぁぁぁ！！そうまでして裏世界のライダーになりたくないわよ！！」
みゆき
「でも、面白そうですね。やってみる価値はあると思いますよ？」
↑乗り気
かがみ
「Σみゆき！？」

ガラハド
「よし、みんなで裏世界のライダーに変身してみよう！！」↑いきなり乱入
かがみ
「いやいやいやいや！！」

※結局、全員第5世界までのライダーに変身する事にしました。

ガラハド
「けれども、だ。みんながみんな変身出来る訳じゃないから、そこには気をつけて。」

バラレル全
「「「はーい…。」」」←一部乗り気じゃない

・仮面ライダーグランザムの場合
条件：一度寝て石碑に選ばれる事。

―夢の中―

石碑
『この１０人の中から選ぶなら？』
こなた
「うん、誰ならグランザムになれそう？」
石碑
『うーん、そうだな…。そこの紫のツイテと、紫の片割れ、それにブロンドの外人。』
かがみ
「えっ、私？」
つかさ
「わ、私も？ほぇ～。」
パティ
「ヤリマした、コナタ！」
こなた
「なるほど、風の属性が入っている関係か…。」
みゆき

「こればかりは、仕方ありませんね。」↑炎属性

かがみグランザム
「クウガと違って重いから、動きが悪いわね。」
こなた
「ま、仕方ないね。かがみん。」↑他人事のように
かがみグランザム
「かがみん言うな！！」

※この後、トルネード・ディバステイターで吹き飛ばされました。

あやの
「柊ちゃん、どんまい。」
かがみグランザム
「こなたぁぁぁぁぁ…。（泣）」

つかさグランザム
「でも、思ったより軽いね。」
こなた
「うーん、人によりけり、ってところかな。」

パティグランザム
「オー！！イガイとカルイデース！！」
こなた
「ガルルさんと、どっちが軽い？」
パティグランザム
「コッチがカルいデスネ。」

その頃のガルル
「…ｏｒｚ」

・仮面ライダーミラージュの場合

条件：沖田　知也に気に入られる事。
・闇の力を持つと同時に優しい心を持っている事。

沖田　知也
『この１０人から選ぶのだな。』←今回、ゆのちゃんから許可をもらって借りてきました
こなた
「お願いします、知也さん。」
つかさ
「でも、闇の力って随分限られた力だよね？」
かがみ
「まぁね、相当闇が濃くなきゃ無理よ。ましては、優しい心も１セットなんて…。」

知也
『そこの紫コンビのみ、それ以外は無理だな。』
かがみ・つかさ
「「Σ私達は双子です！！」」
知也

『あ、そうだったのか。すまない。』←ちょっとボケてみた

かがみミラージュ
「何だろう、この違和感…。」
こなた
「ま、アルティメットにもなれるから、無難じゃない？」

つかさミラージュ
「私の場合は、ＵＢに変身できるから関係あるよね。」
ゆたか
「いいなぁ…お姉ちゃん達ばかり。」
ひより
「どうせ私達なんて…！」
こなた
「はい、ゆーちゃんにひよりん、地獄兄弟化しないで。お父さんが悲しむから。」
ゆたか・ひより
「「あ、それは大丈夫。」」←なったとしても、ほんの一瞬

・仮面ライダールゥの場合

条件：実は、ない

パラレル全

「「「えぇぇぇぇ！これは以外！！」」」
シャイアン
「本当だ。」←今回は調べる担当
みなみ
「…何となく龍騎みたいですね。」
シャッフル
「ま、そう言うこった。」←今回はアイテム・人材担当

かがみルゥ
「うわぁ、軽い！すごく軽い！！」

つかさルゥ
「スキップしたくなりそう、かぁる～い♪」

みゆきルゥ
「何だか新鮮ですね。」

みさおルゥ
「うっひゃあ、軽いなぁ、これ！！」←ルゥの装備は軽く頑丈に作られています

あやのルゥ
「まるで服を着ているみたい！すごく軽いわ！」

ゆたかルゥ
「パピヨンちゃん、どう？」←パピヨンがサポート
パピヨン
『はい、素晴らしく軽いです。さすが魔法金属ですね！』

みなみルゥ
「…体が、軽い。」
ひよりルゥ
「この軽さを555に生かせたら…！！」
パティルゥ
「オー！ワンダフル！スバラしいデース！」
こなたルゥ
「やっと変身できるライダーが見つかったよ。しっかし、軽いね～。」

・仮面ライダー陣雷の場合
条件：退魔の力を持つ者、あるいは忍者の末裔である事。

こなた
「何、適格者がいない…だと…！？」
みゆき
「私も無理して試してみましたが、結局は…。」↑鬼の力そのものが魔の力だと認識された
かがみ
「ま、どのみち無理よ。諦めなさい、こなた。」
こなた

「あ、でも、かがみの家って神社だよね？ひょっとしたら…。」
かがみ
「だからって、退魔の力があるとは限らないわよ！」

・仮面ライダーライトニングの場合

条件：稲妻に耐性がある者
・人々の笑顔を守る意志が強い者

つかさライトニング
「私は一緒に戦った事があるから、ほら大丈夫だよ？」
こなた
「…痺れない？」
つかさライトニング
「ううん、特に何も。」←耐性かなりあり
みさお
「私は最初の条件はクリアしたけど、さすがに2番目はキツいゼ。」

あやのライトニング
「…あれ？出来ちゃった。」
パラレル全
「「「えぇぇぇぇぇ！！」」」
ゆたか
「そう言えば、峰岸先輩はいつもにこにこ笑っていたから、条件に当てはまったのかも…。」
こなた

「きっとほら、あれだよ。『笑う角には副来る』、それしかないって。」↑その通り！！

ゆたか
「みなみちゃん達は、どうだった？」
みなみ
「…無理。」
パティ
「サスガにムズカシいデース。」↑お手上げポーズ
ひより
「最初の条件が、クリア出来ず…。」↑最初の耐性で黒焦げに

こなたライトニング
「ま、一応本家じゃ主役の１人だし。」↑ニヨニヨにも適応
かがみ
「あんたはな。」

ゆたかライトニング
「えぇぇぇ、私まで変身出来たなんて、何だか不思議。」
かがみ
「ゆたかちゃんは、いつも笑顔だから適応出来たのかもね。」
ゆたかライトニング
「そうですか。」

ガラハド
「これで全員分終わったな。」
シャイアン
「えぇ。しかし、このデータを一体どうするのですか。」↑データ

も取っていた
ガラハド
「このデータを参考に、新しいライダーを作ろうと思ってね。」
シャイアン
「Σまた作る気ですか！？」

※翌日。

シャッフル
「おやっさーん、連れて来たぜ！」
ガラハド
「おー、ご苦労さん。」
シャイアン
「父上、一体誰を連れて来たのですか？」

平沢　唯（本編の平野　唯と区別するため、本名で呼称）
「シャイアンさーん、お久しぶりー！！」
軽音部
「「「「今日はー！！」」」」
沖田　ゆの（以下、ゆの）
「お久しぶりです、シャイアンさん。」
ケイン
「今日は、随分と女子が多いな。」

ジョー
「でも、姫の美しさにはかなうまい。」
日向　仁
「おぉ、笑顔が弾けてるな。」

シャイアン
「みんな！！…父上、まさか。」
ガラハド
「あぁ、こなたちゃん達から変身アイテムを借りて変身大会を、な。」
こなた
「何か面白そうだねぇ、手伝わせて。」←毎日ヒマ
シャイアン
「父上ぇぇぇぇぇ！！」

ガラハド
「…クウガとアギトはベルトを手に入れる事自体が無理なので、除外する。」
シャイアン
「まぁ、まず無理だろうな。」
こなた
「手に入れるとしたら、自作するしかないよ。」
ガラハド
「龍騎も制限ゼロだから除外。…よって、５５５から始めよう。」

・仮面ライダー555の場合
条件：オルフェノクである事。
・オルフェノクの信号を埋め込んである者、ないしは人外である事。

こなた
「まぁ、さすがに人外はいないでしょう。」
ゆの
「知也のサポート付きじゃ、ダメですか？」
ガラハド
「うーん、ちょっと難しいかな。…そもそも、ゆのちゃん自体が人外じゃないし。」
ゆの（知也）
「『ガーン！！』」
こなた
「おじさん、いくら何でも酷いよ…。」←背後に大天使ディケイド（激情態）降臨
平沢
「Σ今何か見えたー！！」
澪
「怖くない、怖くない…。」←ガクガクブルブル

こなた
「では、いないって事で、次へ…。」
紬
「あ、ちょっと待って。」
こなた

「…どしたの？紬ちゃん。」
平沢５５５
「…変身出来ちゃった。」
澪
「うそっ！？マジで！！」
律
「…唯って、オルフェノク？」
ガラハド・こなた
「「興味深すぎる？！」」

・仮面ライダーブレイドの場合
条件：アンデッドに適応している者
・異端者である事

こなた
「これは、どう？（特にゆのちゃん）」
ゆの
「これなら、知也さんのサポートで…。」
ガラハド
「うん、大丈夫だ。」↑知也が憑依しているのでＯＫ
ゆの
「よかった、知也さん。」
知也
『いや、本当によかった。』↑嬉しそう
ケイン

「…と言う事は、私も変身出来ると。」↑魔法が使えるのでＯＫ
ジョー
「俺も忍者だからＯＫだな。」↑退魔の力だけでもセーフ
梓
「あの…。」
全員
「「「どうした（の）？」」」

唯ブレイド
「私にも出来た！！」
全員
「「「うぇぇぇぇ！！」」」
ガラハド
「唯ちゃん、一体君の体はどうなってるの？」

・ケイン・ブレイドの場合、パンチ・キック力が＋１０ｔ追加される。
また、ジャック・フォーム時には飛行速度が大幅に向上する。
・唯ブレイドの場合、ライトニング・ブラスト（ソニック、スラッシュでも可）の威力が５０％アップする。また、他のラウズ・カードも併せて使用可能。

・仮面ライダー響鬼の場合
条件：とにかく鍛えている事。

こなた
「これは、ケインさん達が有利だね。」
シャイアン
「…そうだな。特に、ジョーは忍者だからバンバン鍛えているであろうし。」
ジョー響鬼
「当然だ。…しかし凄まじいな、鬼の力と言うのは。」←忍者として鍛えているため、鬼の力をビンビン感じている。
ケイン
「私は軍人だから、鍛えなければ、まず生き残れないしな。」

仁
「ところでジョー、着替えは持っているだろうな？」
ジョー
「着替え？何で？」
こなた
「響鬼から戻った時、着替えがないと全裸のままだよ！！」←赤面
ジョー響鬼
「それを先に言えぇぇぇぇぇ！！」←着替えなし
唯響鬼
「よかった～、着替え持って来て。」
こなた
「でも、着替えるなら別の場所で着替えてね。」

・仮面ライダーカブトの場合

条件：カブトゼクター任せ

ジョー
「随分いい加減だな。」
こなた
「ま、仕方がないよ。…あ、みなみちゃんのカブトゼクターが飛んできた。」

カブトゼクター
『ギュイーン！』←選択中

ゆの
「えっ、私！？」
こなた
「すばらしいっ！！」←どこぞかの社長風
シャイアン
「後は誰だ？カブトゼクター。」

ケイン
「私か…妥当だな。」
こなた
「ケインさんなら、カブトに変身しても安定して戦えるね。」
ケイン
「まぁ、ね。」←少々照れている
シャイアン
「…後は誰か、大体わかった。」

平沢
「私だー♪」
全員
「「「やっぱりねー。」」」

・仮面ライダー電王（Ｎｅｗ電王）の場合

条件：異端者である事。

こなた
「この場合は、パピヨンちゃんに任せるよ。」
パピヨン
「『はい、私にお任せを。』」←ゆたかに憑依したまま参加

※数分後。

シャイアン
「で、誰に適合したんだ？」
パピヨン
「『ゆのちゃんと、ケインさんに、ジョーさん。…あと、唯ちゃん。』」
梓
「唯先輩、すごい…。」
紬
「安定してますね～♪」
澪

「しかし、唯だけでこれだけ変身出来るのは、なぜだろう？」
律
「ひょっとしたら石碑のおかげ、かな？」
こなた
（何だろう、紬ちゃんが嬉しそうだ…。）

・仮面ライダーキバの場合
条件：魔皇力に耐性がある者
・ファンガイアである事。

こなた
「さぁいよいよラストだよ。」
キバット
『うっし、キバっていくぜー！！』
シャイアン
「今回は、ゆのだけ外すぞ。」
ゆの
「うん、以前（ＴＯＵＲ　７参照）キバに変身したからね。」
知也
『あの時は本当に助かったよ。』
キバット
『まぁな。エッヘン』←少しいばる

※数分後。

シャッフル
「…で、どうだった？」
キバット
『黙ってくれ、天パーもどき。…結果だが、意外な奴２人がキバに変身した。』
シャイアン
「意外な奴２人？」
ガラハド
「ほぅ、こいつは興味深いな。で、誰と誰なんだ？」

梓キバ
「…私です。」↑挙手
仁キバ
「俺もだ。」

澪・律・紬
「「「えぇぇぇぇぇ！！！」」」
唯
「？」↑キバ確定
こなた
「へぇ～、これは驚いたぁ！！」
ガラハド
「梓ちゃんと仁がキバ、だと！？」
シャイアン・シャッフル「「ありえない。絶対ありえない…。」」

ガラハド
「とりあえず、これで全て終了した訳だが…。」
シャイアン
「今日は本当に疲れたな。」
シャッフル
「俺なんか、まだみんなに変身アイテムを返さなきゃならないんだ、ここから忙しくなるよ。」

ガラハド
「さぁーってと。研究所に帰って、冷たいビールでも飲むか。」
シャッフル
「俺も、こっちの仕事が一段落済んだら研究所に帰りまさぁ。」
シャイアン
「私は別にどちらでも構わないがな。」
こなた
「あのー、お3方。何か1つ忘れてますよ?」←怒りモード
シャッフル
「えー、何だったっけ?」
シャイアン
「あっ!まさか…。」←気づいた
ガラハド
「そうだった!!」←すっかり忘れてた

こなた
「まだシャイアンさん達のライダー適合が終わってないよ〜(泣)
!!前もすっぽかして、今回もすっぽかす気なの!?」←滝のような涙&大泣きかがみオーラ

シャイアン
「しかし、もうデータは取り終わったばかりだ、それにメモリに空きが無い。」↑ＵＢＳメモリにフル状態
ガラハド
「それに（作者の）次回のネタが既にまとまった後だから、それはまた改めてやろう。」
こなた
「…約束だよ。」
３人
「「「あぁ、約束しよう。」」」

ボケ　6　裏世界ライダー変身事情　～何でこうなるの？～（後書き）

※事情説明中

ＸＸ

「…そうか。事情は大体わかった。」

シャイアン

「とにかく、私やシャッフルのライダー適合を早く済ませてほしい。でなければ、こなたが怨霊化する。」

こなた

「ウランデヤル、ウランデヤル、ヤンデレテヤル！！」

ＸＸ

「お、落ち着け、こなた。ま、とにかくわかった。」

シャイアン

「お願いします。」

こなた

「ヤンデレテヤルー！！」

次回予告

神崎　士郎・神崎　四郎

「誰だチミは！！」

シャイアン
「ぐがっ？！」
みさお
「ヴェアァァァァァ！！」

こなた
「誰だ、こんな企画考えたのはぁ！！」

ボケ　７

「スーパー小ネタ大戦２０１１・解ゲボ」

みさお・あやの
「「はやと君、どんまい。」」
はやと
「どうせ、僕なんて…。」↑１人地獄兄弟化

ボケ　7　スーパー小ネタ大戦２０１１　解ゲボ

１：カウント・ザ・メダル

こなた
「今、私達が使えるメダルは！」

・クワガタ
・シャチ
・ギルス
・クジャク
・カマキリ
・トラ
・ゴリラ
・ウナギ
・タコ

かがみ
「ちょっと待てこなた、一体どこで手に入れたの？そのコアメダル！！…て言うか、１つだけおかしいのが混ざっているんですけどォォォォォ！！」
こなた
「Σあっ、本当だぁぁぁぁぁ！！」←確認した
つかさ
「Σ今まで気づかなかった！」

2：ところで…

かがみ
「こなた、ここにコアメダルがある、と言うことはオーズドライバーもあるはずよね？」
こなた
「えっ？」

……。

こなた
「ああっ！！」↑頭を抱えている
かがみ
「ちょっと、オーズドライバーが無かったら変身出来ないじゃない！！」

※結局、ガラハドがオーズドライバーを自作してくれるまで待つ事にしました。

3：シャイアンとかがみとお約束

かがみ
「シャイアンさん、前からずっと思ってた事があったんだけど。」
シャイアン
「どうした？藪から棒に。」
かがみ

「シャイアンさんって、女性に触る機会はないのですか？」
シャイアン
「女性って…君達に？」
かがみ
「えぇ、私達がようやく登場したのに会話以外で触れる機会が全くなくて。」
シャイアン
「まぁ仕方あるまい。私は騎士だから、女性に触れるなどは礼儀違反になるからな。」←女性は守る者と思っている

かがみ
「でも、せっかくだから私に触ってみて。」
シャイアン
「Σえぇぇぇぇぇ！！」
かがみ
「…無理、ですか？」
シャイアン
「いや、無理も何も、私にとって女性に触る事自体恐れ多いのに、何故？」←相当の奥手&手が震えている
かがみ
「大丈夫よ、握手すればいいだけだから。」←右手を差し出す
シャイアン
「握手だけか…。それだけなら大丈夫だ。」

ドキドキ…ドキドキ…。

みさお
「う〝ぁぁぁぁぁ、どいてどいて！！」←何故か猛ダッシュ

シャイアン
「なにいいいい！」

ボグシャァァァァァ！！↑お約束の衝突

シャイアン
「うーん、いててて…。」↑みさおが上に乗っている
みさお
「シャイアンさん、なんでここにいるの？危ねーよォ！」↑シャイアンを触りまくっている
かがみ
「日下部、大丈夫？」
みさお
「あ、柊。痛かったよ～！」
シャイアン
「みさお、早く動いてくれ！重い！」
みさお
「あ、ごめん。」↑すぐに動いた

かがみ
「そう言えば日下部の下敷きになってたけど、どうだった？」
シャイアン
「え？」
みさお
「え？って、私に触った感触だぜ。」
シャイアン
「感触…まさか、私は女性に触れてしまったのか？」↑全身が震え

ている
かがみ・みさお
「「？」」
シャイアン
「触ってしまった！！…私は女性に触ってしまった！！ど、どうしたらいいのだ！！」←大混乱
かがみ・みさお
「「Σおおーい！！そんな大げさな！！」」
シャイアン
「触ってしまった…触ってしまった…ｏｒｚ」←ショックで立ち直れない

かがみ
「何だか悪い事しちゃったかな？」
みさお
「柊ぃ、シャイアンさんのためにやったとは言えこの結果は…。」
←実はかがみとグルだった
かがみ
「ちょっと最悪な結果になったわね…。」

※その後、かがみとみさおはシャイアンに謝り倒して何とか機嫌は直りました。

４：ＮＯＴＥ　２のラストに現れた神崎　四郎は何者なのか？

神崎　志郎・神崎四郎

「「誰だ、チミは！！」」←伊東　四郎風に

※と言うわけで、神崎　四郎は『こなたの世界』の神崎　四郎でした。

５：グランザムの世界の律の行動（ＴＯＵＲ　２の最初の方）

唯
「りっちゃん、私を狙っていたよ！！」

律
「Σえっ！狙っていたっけ！？」

澪
「（ＴＯＵＲ　２を読んで）あーっ！本当だぁ！！」

紬
「Σ律ちゃん、まさか…！！」

梓
「先輩…。」

律
「待てぃやぁ！！私は唯の援護をしただけなのに、どうし…そうか、わかった！」

４人
「「「「どうしたの？」」」」

律
「これも、乾　巧の仕業だ！！そうだ、そうに違いない！！！」

４人
「「「「いやいやいやいや！！！！」」」」

※いえ、作者の表現ミスです。

６：ＴＯＵＲ　１０の文章に…

ケイン
「作者殿、地の文の中に同じ文が２つ入っていたのがあったが、あれは。」↑ＰＡＲＴ　２の途中にあります
ＸＸ
「あぁ、それなら『そこは大事な所だから２回言いました』と考えればいい。」
ケイン
「…本当なのか、それは。」
ＸＸ
「…まぁね。」↑自信なし

※実は、後になって気づきました。皆さん、すみません。ｏｒｚ

７：ラトラーター・パニック

みさお
「昨日、博士がオーズ・メモリーの改良に成功したって。」
シャイアン
「あぁ、話は聞いている。今回テストのためにこなたが名乗り出た

が、何だか嫌な予感しかしないな。」←少し悪寒がする
かがみ
「私も同感。こなたの事だから、厄介事を起こさなければいいけどね。」

ドドドドドドドドドド…！

シャイアン
「な、何だ？この地響きは…？」
かがみ
「ま、まさか…。」
みさお
「チビすけ？！」

こなたラトラーター
「わぁぁぁぁぁぁ誰か止めてぇぇぇぇぇ！！たぁぁぁぁぁすぅぅぅぅうけぇぇぇぇぇてぇぇぇぇ！」←暴走している上、止め方を知らない

シャイアン
「ぐがっ？！」←踏まれた
みさお
「ヴェアァァァァァ！！」←吹き飛ばされて星になった
かがみ

「シャイアンさぁぁぁぁぁん、日下部ぇぇぇぇぇ！！」

こなたラトラーター
「わぁぁぁぁ、ゆーちゃんどいてどいてぇぇぇぇぇ！！」
ゆたか
「え、何あれ？」↑一緒に帰っている途中
みなみ
「…あれは？」
ひより
「何すか？」
パティ
「ホワイ？」

4人
「「「「サイクロォォォォォン！！」」」」↑4人同時に吹き飛ばされた

こなたラトラーター
「あぁぁぁぁぁ！！みゆきさぁぁぁぁぁん、みんなぁぁぁぁぁ、よけてぇぇぇぇ！！」
みゆき
「…あれは一体何でしょう？」↑やはり帰る途中
つかさ
「ゆきちゃん、あれは何？」
あやの
「高良ちゃん、ひーちゃん、あれは？」3人
「「「あ～れ～！！」」」↑ゆたかの時と同じ

はやと
「あー、終わった終わった！長かったなー、始業式。」
勝舞ハンド
「ま、その分帰りのカード屋で買ったパックの中に欲しかったレアが入っていたじゃないか、それで今日の運勢は五分だよ。」

ヒュルヒュルヒュル…。

はやと
「ん？何、この音？」
勝舞ハンド
「！！は、はやと、上だ上！！」

7人
「「「はやと君、当たるよ〜〜！！」」」

はやと
「わぁぁぁぁぁ…げべろっぱぁ！！」↑7人の直撃を受けた

ゆたか
「…うっ、いたたた。先輩、みんな、大丈夫？」
↑尻をさすりながら
みなみ

「…私は大丈夫、みゆきさんは？」
みゆき
「えぇ、何とか無事ですが…。それにしても、あれは一体？」
勝舞ハンド
「おーいみんなぁ、下、下ぁ！！」↑下を指差す
7人
「「「？？」」」
はやと
「先輩…早く降りて、重い…。」↑7人の下敷きのまま動けない
7人
「「「あっ、ごめんね！！」」」↑すぐにどいた
勝舞ハンド
「おい、大丈夫か？」
はやと
「僕は大丈夫だけど、まさか先輩達が降ってくるなんて…。」
ひより
「うん、流石にかわしきれなかったけど、みんなケガもなくてよかったッス。」
はやと
「あれ？…ちょっと待ってください先輩、今先輩達は全員僕の上に腰をおろしてましたね？」
7人
「「「うん。」」」

はやと
「ほわぁぁぁぁぁ！！…さ、触ってしまった！先輩に触ってしまった！！あぁ、どうしたらいいんだ！！」←汗大量、大混乱
7人
「「「えぇぇぇぇ！！それどういう事！！？」」」
はやと
「先輩に触ってしまった…触ってしまった…ｏｒｚ」←凄まじい落ち込み様
7人
（（（ど、どうしよう…。））））←全員冷や汗をかいてる

こなた
「誰だ、こんな企画考えたのはぁ！！」←やっと止まった&背後に大天使カザリ（完全態）降臨
かがみ
「Σ何か怖いオーラが出てるよ、こなた！！」
みゆき
「Σ泉さん、落ち着いてください！！」←こなたをなだめながら
シャイアン
「父上、何故ラトラーターが暴走したのですか！！」
みさお
「理由を教えろヨー！」←成層圏まで飛ばされたがシャッフルがタジャドル・メモリーで変身して助け出した

ガラハド
「…すまん、リミッターをつけるの忘れてた。」
全員
「「「いや、リミッターはつけよう（ましょう）よ！！危ないから

！！」」」

※ちなみに、ラトラーターメモリーでの最高速度は時速３５０ｋｍで、リミッターをつけると１００ｋｍ落ちます。今回皆が吹き飛ばされたのは、究極空間仕様です

※そして、こなたはマニュアルをしっかり読みましょう。きちんと止め方が書いてあります

８：ボケ　４の真実

かがみ
「そう言えばみゆき、前（ボケ　４後書き）の海水浴でこなた達が療養した話だけど、何でこうなったの？」
みゆき
「はい、実は…。」

※話は、こなた達が高良家に泊まりに来た時の事…。

こなた
「今日は酷い目にあったねー。」
つかさ
「そ～だよね～。特に水のエルとヤミーには。」←ライオンクラゲヤミーを素手で殴って倒した
シャッフル

「とにかく、みゆきさんの家に泊まって疲れを…。」

みゆきの弟子達
「「「わぁぁぁぁぁ！！」」」←蜂の巣をつついた様な騒ぎ

こなた
「あれ？一体どうしたんだろう？」
つかさ
「ゆきちゃんの身に何かあったのかな？」
シャッフル
「おーい、どうしたんだ！？この騒ぎは！！」

みゆきの弟子
「あ、丁度よかった！実は、今師匠が戦闘態勢に入りまして。」
3人
「「「どうして？」」」
みゆきの弟子
「…オロチが復活したんです！！」
3人
「「「えぇぇぇぇぇ！！オロチが復活したぁぁぁぁぁ！！！」」」

※結局、こなた達はオロチを倒すためみゆき達に加勢し、気がつけば朝6時45分になっていました。

つかさ
「つかれた～、もう体がボドボドだよ～。」←すでに限界

こなた
「手強かったなー、シャッフルさんがいなかったらヤバかったよー。」←あちこちがガタガタ
シャッフル
「…とにかく、早く部屋に入ってビールでも飲みたいぜ。みゆきさん、空いている部屋は？」

響鬼
「あ、すみません。今、弟子の治療のために部屋は全て使っています。」←とどのつまり、空き部屋無し

こなた
「そんな～（泣）」
つかさ
「ゆきちゃ～ん（泣）」
シャッフル
「…お2人さん、準備はいいかい？」←頷く2人

3人
「「「不幸だぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」」」←芦川ショウイチばりの絶叫＋その場で気絶

※その後、みゆきから連絡を受けたガラハドにより、3人は大八車に積み込まれて仮面ライダールゥの世界に担がれ、太陽神教会で療養しました

かがみ
「…そうだったのね、今まで気がつかなかったわ。」
みゆき
「みなみちゃんにも応援を頼んだのですが、ゆたかさんの家に泊まりに行ってまして…。」
かがみ
「……何だか泣けてきちゃった。つかさ、こなた、ごめんね。（大泣）」↑後悔してもすでに遅し

9：フォーゼのアストロ・スイッチ

ゆたか
「今朝、目が覚めたらベッドにこんな装置があったんだけど、お姉ちゃん達は知ってる？」↑謎の装置をこなたに渡す
こなた
「あーこれね。ゆーちゃん、これはアストロ・スイッチと言って、次の仮面ライダー・フォーゼが使用する『モジュール』を起動させるための専用スイッチだよ。」↑スイッチを手にして
みなみ
「…このスイッチ、横に番号が振ってあります。これは一体？」
かがみ
「んー、これはモジュールのナンバーかな？5って書いてあるから、これは…。」
こなた
「マジック・ハンドだね、映画で見たからわかるよ。」
かがみ
「あ、でもフォーゼ・ドライバーがないから今は使えないわね。」

こなた
「かがみ、言うのも何だけど、私使えるよ。」↑ドヤ顔で
かがみ
「…ちょっと待て。ドライバー無しでどうやって起動させるのよ。」
ゆたか
「お姉ちゃん、本当に出来るの？」
こなた
「まぁ任せてよ。まずは、スイッチを…。」

グサッ！↑左腕に差した
【マジック・ハンド！！】

全員
「「「えぇぇぇぇ！！腕に直差しぃぃぃ！？」」」
こなた
「そして…ポチッとな。」↑スイッチ・オン

【マ・ジ・ッ・ク・ハ・ン・ド・オン！！】

ウィーン、ガチャガチャ↑変形中

こなた
「じゃーん、お待たせぇ！」↑マジック・ハンドがこなたの腕から
現れた
みなみ

「…すごい。」↑拍手
ゆたか
「まるで手品みたい！すごーい！」
かがみ
（これはある意味、才能ね。…って言うか、ドーパントじゃあるまいしどうやって腕にコネクターを取り付けたのよ！）

１０：ラストは、ダイエットネタ

こなた
「かがみ、最近ダイエットはどうしたの？」
かがみ
「そうね、そう言えば全くやってなかったわね。」↑戦いで忙しかったため
こなた
「それだったら、イクササイズやってみる？７５３呼んでくるけど。」
かがみ
「あー、それならやめて。あの人がいると、気温がサウナ並みにはね上がるし。」
こなた
「なら、ＤＶＤがあるから、それでやってみたら？」
かがみ
「うーん、そうねぇ…。」

※結局、やってみる事にしました。

753
『さぁまずは、腕をふりなさーい、ふりなさーい。』
かがみ
「…こう？」↑腕を振ってみる
753
『更にふりなさーい、ふりなさーい。』
かがみ
「…よーし。」↑更に振る
753
『もっと早くふりなさーい、ふりなさーい。』↑速度が半端なく早い
かがみ
「ちょwえぇっw」
753
『クロック・アップ並にふりなさーい、ふりなさーい。』↑振りすぎて腕が見えない
かがみ
「できるかぁぁぁぁ！！」

※この後も、『アクセル・トライアル並にけりなさーい、けりなさーい。』（振りすぎて足が見えない）、『ブレイド・ジャック並にとびなさーい、とびなさーい。』（本当に空を飛んでいる）等、無茶苦茶なダンス（？）ばかりでした

かがみ
「こなた、このＤＶＤどうなってるの？通常じゃありえない動きばかりだし。」

こなた
「あ、ごめん。これ、海賊版だった。」←風都製のコピー版
かがみ
「随分いい加減って言うか、ふざけた海賊版ね。…で、誰からもらったの？まさか、ガラハドさんからじゃ。」←青筋が１００以上出ている
こなた
「ううん、あの人。」←別の方を指差す
かがみ
「？」

鴻上（オリジン）会長&里中（オリジン）
「あのＤＶＤを実際に試す人がいるとは、素晴らしい！！」←秘書の里中と一緒に拍手
かがみ
「あんたかぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」←大激怒

※その後会長と里中は、ＲＵかがみによる自然発火＋ギガントを喰らい、星になりました

ボケ　7　スーパー小ネタ大戦２０１１　解ゲボ（後書き）

こなた
「いゃ～、疲れたねぇ。」
かがみ
「いろいろと、ね。おかげで体中筋肉痛よ。」←肩をもみながら
ゆたか
「でも楽しかったですよ。」
こなた
「ありがと、ゆーちゃん。」←ゆたかの頭をナデナデ

ゆたか
「…ところでお姉ちゃん、シャイアンさんとはやと君はどうするの？」
こなた
「？」

シャイアン・はやと
「「女性に触ってしまった、触ってしまった…ｏｒｚ」」

かがみ
「Σまだ落ち込んでたのー！？」

次回予告

こなた
「いよいよやって来た！私達の望んだこの時が！！」

シャイアンＢＬＡＣＫ
「…出来た、簡単に。」
かがみ
「うっそ、本当に！？」

そうじろう電王ＷＦ
『降臨、満を持して！』
こなた
「一番似合わないのキター！！」

ＸＸフォーゼ
「宇宙、キタァァァァァ！！」
全員
「「「ヴゾダドンドゴドーン！！」」」

ボケ　８

「陳情！チーム・シャイアン、ライダー適応事情」

はやと
「次回も、よろしく…」
1年生組
「「「「ゼーット！！」」」」
勝舞ハンド
「意味がちがーうゼーット！！」←こちらが正しい使い方

ボケ　8　陳情！チーム・シャイアン　ライダー適応事情

こなた
「いよいよやって来た！私達の望んだこの時が！！」
パラレル全
「「「うんうん。」」」↑一斉に頷く
シャイアン
「まぁ、皆が言わなくても私にはわかる。」
シャッフル
「俺達のライダー適応テストだろ？…心配しなくても大丈夫だって。」

ガラハド
「今回は気合いを入れてテストを兼ねた物を作って来た。まずは息子達の昭和ライダー適応をやり、次は君達パラレルのアイテムによるライダー適応、ラストは自家製フォーゼドライバー適応テストだ。」
パラレル全
「「「うわぁ遂に作っちゃったぁぁぁぁぁ！！」」」かがみ
「まぁそれはいいわ。それより…。」

XX
「あれ、これは珍しい。そうじろうさんじゃないですか。」
泉　そうじろう
「あ、このノベルの作者さん。こなたがいつもお世話になってます。」
平沢　唯

「こんにちは～。」
平野　唯
「あ、オリジナルの私だ。やっほ～。」
右　落次郎
「何だ、この異様な空気は。」
秋山　澪
「何で、こんな事に…。」←ガクガクブルブル
琴吹　紬
「みなさん、楽しそうですね～♪」

かがみ
「作者さんや落次郎ならともかく、何でおじさんまで来るのよ！！」
こなた
「しかも来ちゃったよ、超適応者とその保護者…。」
平沢
「？」←笑顔炸裂
平野
「？」←上に同じ
紬
（ニコニコ）←言わずもがな
澪
「ヲイ破壊者2号。」

こなた
「ん？」←めっさいいスマイル＆背後に大天使ＲＵかがみ（激情態）
降臨
パラレル全（かがみ除く）
「「「「Σきゃあぁぁぁぁぁ！！何あれぇぇぇぇぇ！！」」」」
かがみ

「Σ何で私ーっ！！」
澪
「怖くない、怖くない…。」←唯の背後に避難
紬
「まぁ、綺麗な天使様。」←流石おぜうさま＆聖人君子

・シャイアンの場合

シャイアン
「まずは、私からか。」
シャッフル
「…何かこう、何に変身出来るのか大体予想がついたけどな。」

こなた
「えー、ここから先は長くなりますので箇条書きでまとめます。」

・仮面ライダー1号
・スカイライダー
・仮面ライダーＺＸ

平野
「流石シャイアンさんだね♪」
平沢
「そだね～♪」
つかさ
「…でも、ＢＬＡＣＫは無理なんじゃないかな～？」
かがみ

「そうね、キングストーンの力なんて一朝一夕で使えないから、やっぱり無理…。」

シャイアンＢＬＡＣＫ
「…出来た、簡単に。」
かがみ
「うっそ、本当に！？」
つかさ
「あ、でもシャイアンさん、すごくかっこいいよ。今のままでも十分似合ってるよ。」
シャイアンＢＬＡＣＫ
「そうか、ありがとう。」←少し照れている

※ちなみにＢＬＡＣＫ　ＲＸにも挑戦しましたが、無理でした。
※シャイアンＢＬＡＣＫの場合、キングストーン・フラッシュの威力が光太郎ＢＬＡＣＫよりも１・５倍アップしている。

・シャッフルの場合

シャイアン
「がんばれよ。」
シャッフル
「あぁ、何とかやって見るさ。」

こなた
「それで、最終的に以下の通りになりました～♪

・仮面ライダー2号
・ライダーマン

…よく見ると、2号ばっかだね。」
シャッフルライダーマン
「まぁこればかりは仕方がないさ。ところで…」
こなた
「何？どしたの？」
シャッフルライダーマン
「ドリルアーム用に用意したバッテリーは、どこにあるんだ？確か、おやっさんが持ってきたはずだけど…。」
ガラハド
「あぁ、それならあっちにあるよ。」↑指さす方向に巨大なバッテリーが置いてある
女子全員
「「「えぇぇぇぇ！！あれ工事用のバッテリーだよぉ！！」」」
かがみ
「ドリルアームを動かすだけでいいのに…。」
つかさ
「どんだけー。」

※シャッフルライダーマンの場合、カセット・アームの威力が５０％アップする。

・右　落次郎の場合

落次郎
「俺だけ周りに味方がいないんだ、せめて結果だけは…！」
ゆたか
「落次郎さん、がんばって。」↑励ましている
落次郎
「…ありがとう、どうやら神は俺を見放していなかった様だ。」

こなた
「…で、落ち武者の結果はこっち。

・仮面ライダー1号
・同2号
・仮面ライダーストロンガー
・仮面ライダーZX
・仮面ライダーBLACK

…全部悪の組織に改造されたライダーばかり。」↑やる気ゼロ
落次郎BLACK
「…俺は元々ジョッカーの幹部だからな。仕方ないと言えば、仕方ないけど。それとこなた、俺は落ち武者じゃないからな。」
ゆたか
「では、向こうの本編（ノリダーの世界）が終わったら、こちらへ来て下さい。」↑柔らかな笑顔で
落次郎BLACK
「あぁ、そうするよ。」↑同情されて嬉しい

・平野　唯の場合

平沢
「がんばって、私のコピー！」
平野
「うん、がんばるよ。」
紬
「あの～、今思ったのですが…。」
平沢・平野
「「どしたの？ムギちゃん。」」
紬
「あまりにそっくりで、お2人の見分け方がわからないのですが。」
澪
「確かにそうだな。どっちが本物の唯なのか、はっきりさせないと。」
平野
「見分け方なら簡単だよ、澪ちゃん。私の右目の下に、こなちゃんと同じ泣きぼくろがあるのが私だよ。」
平沢
「あと、後頭部にアホ毛があるのも特徴だよ。」
澪
「Σまるでこなた先輩みたいだぁぁぁぁぁ！！」
紬
「こちらが、平野さんの結果です。

・全て

…素晴らしいっ！！」↑某会長風に、ただし穏やかに

みゆき
「まさか、全適応者がまだいたなんて…信じられません。」
ガラハド
「いやまさか、コピーでも同じ結果になろうとは。」
こなた・かがみ
「「いやはや、すごい。」」

※ちなみに、平沢の方でも試しましたが、結果は同じでした。流石、超適応者

・泉　そうじろうの場合

こなた
「お父さん、無茶だけはしないで。」
そうじろう
「大丈夫、ちゃっちゃと済ませるから。」

かがみ
「…で、おじさんの結果がこちら。

・仮面ライダースーパー1

でも、どうして？」
こなた
「多分、花粉症の時にやったネタつながりだね。」↑詳しくはアニメを参照

※ちなみに、そうじろうスーパー1は冷熱・エレキハンドの出力が一也スーパー1の3倍にアップしています

・作者の場合

XX
「んじゃ、いくぞ。」

みゆき
「こちらが、作者さんの結果です。

・ライダーマン
・仮面ライダーX
・仮面ライダーZX

…以外にXと名のつくライダーが多いですね。」

XX
「そうだな、それにメカ系も混ざっているしな。…あ、それと最後のほうでライダーマンを使ってやりたいことがあるから、とっておいて。」

ガラハド
「もちろんさぁ♪」↑ノリノリ

ガラハド
「さて、次はパラレル全員参加の平成ライダー適応テストに入るぞ。」

こなた

「例によって、クウガ・アギト・龍騎は除外して始めるよ。」←今回は助手として参加

・５５５の適応条件

１オルフェノクあるいはオルフェノクの信号を埋め込んである者

２：人外である事

適応者：かがみ、つかさ、みさお、みゆき、パティ、そうじろう

かがみ５５５

「私ゃ人外かい。」←アマダムのせいで人外扱い

こなた

「まさかお父さんまで人外だったとは。」

そうじろう

「すまん、こなた…ｏｒｚ」←アナザーアギトだから

あやの

「みさちゃん…。」

みさお

「もう仕方ないヨ、あやの。腹は括ってるし。」←ジョーカー化に片足突っ込んでる

・ブレイドの場合

１：アンデッドに適応している者

２：異端者である事

適応者：かがみ、つかさ、ひより、ゆたか、シャイアン、シャッフル、落次郎、ＸＸ

かがみ
「５５５に続いてブレイドもかい…。（泣）」←もう泣きそう
ゆたか
「先輩、ドンマイ。」
シャイアンブレイド
「私は騎士だから、当然だがな。」←もう慣れたもの
つかさ
「流石、シャイアンさん。」
落次郎
「何故俺も異端者扱い…ｏｒｚ」←ジョッカー幹部も立派な異端者です

※シャイアンブレイドの場合、パンチ・キックの威力が＋１０ｔ追加され、更にライトニング系の必殺技が剣崎ブレイドの２倍アップしている

・響鬼の場合
１：とにかく鍛えている事
適応者：シャイアン、澪

こなた
「シャイアンさんと澪ちゃんが響鬼になった…だと…！？」
みゆき
「そんなに鍛えているイメージはないのに、どうして？」←鬼もビックリ
シャイアン響鬼
「騎士として鍛えてはいるからな。それに自分の世界で変身した覚えもあるし。」←ＴＯＵＲ　１参照
澪
「いやでも、どうせ響鬼になるなら普通は律じゃないの？」←ギター担当
ガラハド
「なら、ちょっとやってみるか？」←変身音弦を手渡した

澪轟鬼
「…ｏｒｚ」
こなた
「澪ちゃん、ドンマイ。」

・カブトの場合

適応条件：カブトゼクター任せ

適応者：あやの、みさお、ゆたか、パティ

みなみ
「…ゆたかが適応していただけで、嬉しい。」
ゆたかカブト
「うん、私も嬉しい。」←仮面の下で赤くなっている
ひより
「…いかんいかん、何を考えているんだ、私は！！」←よからぬ事を考えていた
はやと
「先輩ぃぃぃぃ！！」←乱入

・電王（Ｎｅｗ電王）の場合

適応条件：異端者である事。

適応者：つかさ、ひより、みさお、パティ、シャイアン、そうじろう、ＸＸ、紬

こなた
「うーん、つかさ達ならともかくシャイアンさん達はどうしよう…。」
パピヨン
「『そうだろうと思い、私の戦友を呼んできました。』」←ゆたかに憑依したまま協力
そうじろう
「戦友？」
シャイアン

「一体、誰なのだろうか…気になるな。」

ジーク
『男性諸君、良きに計らえ。』
男性陣（ガラハド以外）
「「「何いいいい！？」」」
シャイアン
「誰だ、この派手なイマジンは！！」
ジーク
「Σ派手とは失礼な！」
ガラハド
「ま、まぁここは穏便に。ではジーク殿、よろしくお願いいたす。」
ジーク
『うむ、任せたまえ。』

そうじろう電王ＷＦ
『降臨、満を持して！』
こなた
「一番似合わないのキター！！」

シャイアン
「…。」↑困った顔をしている
つかさＮｅｗ電王ＰＦ
「『シャイアン殿、一体どうなされた？体調を崩されたのか？』」
シャイアン
「いや、そうではない。確かに、ジーク殿は我ら騎士道に通じる何かを持ってはいるが、態度が大きすぎて…。」
つかさＮｅｗ電王ＰＦ

『「確かに。」』
そうじろう電王ＷＦ
「『態度が大きいなどと言わないでもらいたい！この無礼者が！』」
シャイアン
「…それが一番厄介なのだ。せめて態度を控え目にした方がいい、そうすれば変身するか考えてもいいが。」↑威張り散らす人が嫌い

ゆたか
「ところでパピヨンちゃん、何故かがみ先輩は外してあるの？」
パピヨン
『本来なら私に適応出来るのですが、実は本人から「これ以上異端者扱いするのはやめてくれ」と訴えられまして…。』
かがみ
「…ｏｒｚ」

・キバの場合

適応条件：魔皇力に耐性がある者
２：ファンガイアである事

適応者：あやの、みさお、シャッフル

あやのキバ
「…ｏｒｚ」↑以外な結果に落ち込んでいる
みさお
「私ならともかく何故あやのまで…ｏｒｚ」

パティ
「シカタありまセーン。コレバカリはワタシでもドウにもナリマセンから。」
キバット
『しかし、可能性が広がったと考えればいいんじゃないか？』←あやのを励ましている
あやのキバ
「…可能性、か。」
みさお
「そうだナ。あやのは龍騎だけが取り柄じゃない、他にも力があるんだって事を証明したから。」
あやのキバ
「うん、そうだね。みさちゃんの言うとおりね。」←立ち直った

ガラハド
「さて、ここからはフォーゼドライバーの適応テストに入るぞ。」
平沢
「待ってましたぁ！」←フォーゼ確定のため、平野同様見てるだけ
澪
「ま、唯は超適合者だから仕方ないとして、私達はどうなるの？」
ガラハド
「もちろん、やってもらうよ。当然さぁ♪」
澪
「やっぱり、やるのか…ここまで来たんだ、やってやろうじゃないの！！」←吹っ切れた
紬
「私も、澪ちゃんにつき合います。」

かがみ
「スイッチは、すでに差し込んだ状態ね。」
みゆき
「そして、下の赤いスイッチを全てオンにして、かけ声と共にレバーを引くのです。」
かがみ
「…こうね？」↑スイッチ・オン

『3…2…1！！』

かがみ
「変身！！」

カチッ、カチッ…↑レバーが完全に引かない

かがみ
「…あるぇ？」
つかさ
「レバーが、動かない…？」
かがみ
「だあぁぁぁぁぁ！！こんなんじゃだめだ！！」↑頭にきて外した

パティ
「オーノー…ダメでシタ。」↑ロケット先進国なのに変身出来ず

あやの
「ごめんなさい、無理です。」
みさお
「これ、本当に成功するのか？」
ひより
「うーん、５５５はよくてもフォーゼは、ねぇ…。」
つかさ
「レバーが固いよぉ～。」
ゆたか（パピヨン）
「『…だめです、レバーが固すぎてビクともしません。』」
みなみ
「…無理ですね。」
みゆき
「鍛え方が足りないからでしょうか？動きませんね…。」←鍛え方の問題ではありません

シャッフル
「そもそもおやっさんの作ったドライバーだからな。ムラがあるんだよ、これ。」
澪
「動かない…ｏｒｚ」
紬
「私がやっても、無理でした。」
落次郎
「くそっ、だめだ！！」
そうじろう（ジーク）
「『ふむ、私にも動かせない物があろうとは…。』」

こなた
「私は、どうかな？」

『3…2…1！！』

こなた
「変身！！」

ガコンッ！！

こなたフォーゼ
「フルボッコ張らせてもらうよん♪」
全員
「「「えぇぇぇぇぇ！！」」」
XX
「どれ、こなた、私にも。」
こなた
「あいよ～♪」↑ドライバー、パス

XXフォーゼ
「宇宙、キタァァァァァ！！」
全員
「「「ヴゾダドンドゴドーン！！」」」

シャイアンフォーゼ
「私にも扱えた。…ある意味奇跡だな。」
女性陣全員
（（（ま、シャイアンさんだからねぇ…。））））

男性陣全員
（（（当然だな。））））

こなた
「ついでだから、はやと君もやってみて。」
はやと
「では、逝きまーす！」
ひより
「は、はやと君！字が違うよ！！」

はやとフォーゼ
「…あれ？」
ひより
「は？」
全員
「「「出来ちゃったあぁぁぁぁぁ！！」」」

ガラハド
「そう言えば作者が最後にライダーマンでやりたいことがあるから、って言ってたけど、何だろうな？」
シャイアン
「多分、あれだろう。」↑別方向を指差す

XXライダーマン・バース・ディ（？）
「じゃーん、お待たせ！どうよ！！」↑コテコテの重装備、しかもバースの
全員

「「「Σえぇぇぇぇ！！それ、バースの装備だよ！！」」」
シャッフル
「しかも、それどこから持ってきたんだ！？」
XXライダーマン・バース・ディ（？）
「あっちから。」←ドリルアームで指す

毒島
「バースの装備返せコラァァァァァ！！」←ラトラーター並の速さで走ってきた
XXライダーマン・バース・ディ
「やべっ、急いで逃げねば！！」←キャタピラレッグでスタコラーッシュ

RUかがみ
「…逃がさん。」←変身即自然発火能力、発動
毒島
「きゃあぁぁぁぁぁ、アチチチチチ！！」←巻き添え
RUかがみ
「あっ、ごめんなさい！」
毒島
「　　」←丸焦げ
ひより
「毒島先輩ぃぃぃぃ！！」

こなたフォーゼ
「任せて！！」←右腕のスイッチ変更

【ギガント！】←スイッチ・オン

『ギ・ガ・ン・ト・オン！！』←ギガントモジュール起動

こなたフォーゼ
「発射あぁぁぁぁぁ！」←ギガント乱れうち
ＸＸライダーマン・バース・ディ
「ぎゃあぁぁぁぁぁぁ！！」←全弾命中

※その後、バースの装備は黒焦げのまま毒島に返され、作者はこなたフォーゼのランチャー・リミットブレイクにより星になりました

ボケ　8　陳情！チーム・シャイアン　ライダー適応事情（後書き）

ー　その後　ー

毒島バース
「あ、あれ？」↑クレーンアーム使用中
たまき
「ぶっさん、どうしたの？」
毒島バース
「うん、クレーンアームの飛距離が何となく伸びた様な気がして…。」
たまき
「え？」
毒島バース
「それに、他の装備も威力が変にアップしてるの。おかしいと思わない？」
たまき
「何でだろう？」

※実は、ガラハドがバースの装備の修理をした際、威力アップ＆クロックアップ＋ギガント使用可能といった魔改造をしていました。

次回予告

かがみ
「まさか、本当にやるの？」
ガラハド
「もちろんさァ♪」

つかさタジャドル
「わ、わわっ、制御が利かないよぉぉぉぉぉぉ！！」
全員
「「「えぇぇぇぇ！！」」」

みゆきブラカワニ
「セイヤアァァァァ！！」
ＸＸガタキリバ
「ぐげごばしゃあっ！！」

こなたシャウタ
「ウナギクラーッシュ！！」
かがみタトバ
「…ひでぶっ！！」

ボケ　９
「オーズメモリー・フォーエバー　～ペンダラ、真っ赤に燃えて～」

はやと
「次回もよろしく…」
1年生組
「「「「「ゼーット！！」」」」」
はやと
「…え、1人多いけど誰？」
勝舞ハンド
「誰だ？」
？？？
「それは次回で…。」

ボケ　9　オーズメモリー・フォーエバー　～ベンダラ、真っ赤に燃えて～

ガラハド
「さて今回、我々は。」
シャイアン
「『仮面ライダードラゴンナイト』の舞台、ベンダラに来ている。」
こなた
「…でも、なんでベンダラなの？いつもの究極空間で間に合うのに。」
かがみ
「こなた、もう忘れたの？」
つかさ
「こなちゃん、以前博士がここでなきゃテスト出来ない物がある、って言ってたよ～？」
みゆき
「あ、でも何のテストなのかまでは、まだ聞いていませんね。」
ガラハド
「それについては、このアタッシュケースの中に答えが入っているよ。」↑アタッシュケースを取り出す
こなた
「この中に、ねぇ。」

ガチャッ、キィー↑ケースを開けた

つかさ

「…これって。」
こなた
「オーズメモリー！？」
みゆき
「ひょっとして、これのテスト、ですか？」
かがみ
「まさか、本当にやるの？」
ガラハド
「もちろんさァ♪」
こなた達
「「「いやいやいやいや！！」」」←ボケ　４＆５で懲りている

シャッフル
「まぁそう言わずにテストに付き合ってくれ。それに、今回はゲストもいるんだ。」
つかさ
「ゲスト？」
シャッフル
「彼女だ。」←手招きで呼んでいる

いずみ
「こんにちは。若瀬　いずみ、仮面ライダーオーズです。」
こなた
「へー、彼女がオーズなんだ。」←ジト目で見る
いずみ
「あの、私が何かしたのですか？」
かがみ
「いえ、ちょっとね。」←軽くウィンク

つかさ
（ひょっとしたら、彼女もオーズメモリーの開発に関わっているんじゃ…？）

ガラハド
「じゃ、説明するよ。今回は、オーズメモリーをロストドライバーにセットしてテストする。」
こなた
「やっと手に入ったんだね、ロストドライバー。」
シャッフル
「あぁ、企業のバックアップがようやく付いてな。おやっさんも喜んでいたよ。」←ロストドライバーを見せる
こなた
「あぁ、懐かしいなぁ。これを使う事自体が…。」←しみじみ見る
シャイアン
「そ、そんなに懐かしいのか、これ…。」←ロストドライバー時代のこなたを見ていないから
つかさ
「ところでこなちゃん、今はロストドライバーを使っても大丈夫？」
こなた
「うん、もう大丈夫だよ。」←トライオーに変身出来る時点で解消済み

ガラハド
「それで、だ。いずみちゃんもオーズに変身してメモリーのテストを手伝ってもらうよ。」
みゆき
「それで、若瀬さんも呼んだ訳ですね。」

ガラハド
「そうだ。いつもなら究極空間でやりたいところだけど、こういった障害物のあるところでテストしないと、威力や運動性のデータが取れないからね。」
かがみ
「なるほどね。」

シャイアン
「まずは、つかさといずみから開始しよう。準備はいいか？」
いずみ
「はい、大丈夫です。」←メダル装填済み
つかさ
「いつでもどうぞ。」←オーズメモリーを手にしている
シャイアン
「では、テスト開始！」

『タジャドル！！』

つかさ
「変身！」
『タジャドル！！』～♪～♪～♪

いずみ
「変身！」
『ライオン！クジャク！ゾウ！』

つかさタジャドル
「じゃ、いくよ。」

いずみラジャゾ
「どうぞ。」

バッ！！↑つかさタジャドルがクジャクウィングを展開、大空へ

いずみラジャゾ
「そぉいっ！！」↑タジャスピナー乱射
つかさタジャドル
「はあぁぁっ！！」↑つかさにしては珍しく華麗に回避&タジャスピナーで反撃
いずみラジャゾ
「はっ！！」↑タジャスピナーで防御

ガラハド
「ほほぅ、これは興味深い。」
シャッフル
「つかさも、やるな。」
こなた
「なかなかやるじゃない。」
かがみ
「これも、ある意味才能ね。」

いずみラジャゾ
「…あれ？」↑乱射中止
ガラハド
「どうした？」
いずみラジャゾ
「タジャドルの動きが、おかしいんですけど…。」

つかさタジャドル
「わ、わわっ、制御が利かないよぉぉぉぉぉ！！」←制御装置が壊れた
全員
「「「えぇぇぇぇぇ！！」」」
シャイアン
「ビルに激突するぞ！！」

ドガァッ！！←壁に激突後、内部へ

つかさタジャドル
「きゃあぁぁぁぁぁ、オッペケテンムッキィィィィィ！！」

ボコンッ！！←反対側へ抜け出した

ガラハド
「ビルが…。」

ガラガラガラガラ、ドドドドド…←ビル崩壊

シャイアン
「あっという間に瓦礫の山に…。」

シャッフル
「おいおい、まずいってこれ！！」↑顔面蒼白
かがみ
「ちょｗつかさｗｗ」↑上に同じく

※結局、いずみがタジャドルにコンボチェンジした後、空中からドロップキックを決めてやっと止まりました。

ガラハド
「次はみゆきさんか。」
みゆきブラカワニ
「私の相手は、一体誰なのでしょう？」

ＸＸガタキリバ
「私だ。」
みゆき
「え、作者さんですか？…と言うより、どうしてです？」
シャッフル
「何でもな、オーズ本編の単体コンボの中で唯一出番が少ない（劇場版除く）から、少しでも出番を稼ぎたくて使ったらしい。」
みゆき
「こればかりは、向こうの事情ですから仕方ありませんね。」

ガラハド
「では、テスト開始！」
みゆきブラカワニ

「作者さん、参ります！」
ＸＸガタキリバ
「よし、来なさい！…ん？何故分裂しないんだ？」←１体のまま
ガラハド
「…すまん、メモリーに分身のデータが入りきれなかった。」←全て入れるとメモリーがパンクするため
ＸＸガタキリバ
「ま、仕方ないか。じゃ、いくぞ！」←カマキリソード展開、即攻撃
みゆきブラカワニ
「はっ！」←カマキリソードをシールドで弾いた
ＸＸガタキリバ
「くっ、あのシールドは当たると結構固いな。手が痺れるよ。」
みゆきブラカワニ
「そぉいっ！」←ワニレッグで顔面を蹴り上げた
ＸＸガタキリバ
「ぐげっ、ならピカチュウ並の電撃を喰らえ！！」←頭部から放電
みゆきブラカワニ
「何のっ！！」←シールドで防いだ

ドオォォォォォ…ン←反射した電撃が高速道路の柱に命中、崩壊

ガラハド
「高速道路が…。」
かがみ
「崩れた…。」

ＸＸガタキリバ

「…これ以上被害が出たらシャレにならなくなってくる！一気に決めねば！！」↑スロットルにセット

『ガタキリバ　マキシマム・ドライブ！！』

みゆきブラカワニ
「…。」↑ブラーンギーでコブラ起動

ＸＸガタキリバ
「コブラなんか呼び出して、何をする気だろうか？…にしても。」
ガラハド
「？どした？」
ＸＸガタキリバ
「…何だ、このめっさ少ない分身はぁぁぁぁぁ！！」↑１０体しかいない
こなた
「Σうわ、少なっ！！」
ガラハド
「…ごめん、メモリーの容量だと１０体までが限界なんだ。」
ＸＸガタキリバ
「えぇぇぇぇ！それは困るよ！！…でも仕方ないか。」

みゆきブラカワニ
「…本体を見抜きました！」
ＸＸガタキリバ×１０
「「「いけえぇぇぇぇ！！」」」↑ガタキリバキック（ただし威力は５分の１）
みゆきブラカワニ
「決めます！！」↑メモリーをセット

『ブラカワニ！マキシマム・ドライブ！！』
ＸＸガタキリバ×１０
「「「ん？」」」
みゆきブラカワニ
「セイヤァァァァァ！！」↑分身をすり抜けワーニングライド
ＸＸガタキリバ
「ぐげごばしゃあっ！！」↑本体直撃
いずみ
「す、すごい…。」
ガラハド
「いやはやすごいな。ブラーンギーの能力で、コブラヘッドをレーダー代わりに使うとは。」
みゆきブラカワニ
「いえ、お恥ずかしながら。」
かがみ
「ところで、作者さんは？」
みゆきブラカワニ
「え？」
ＸＸガタキリバ
「うぅ…。」↑ギャグ漫画みたいにビルの壁に張り付いているつかさ
「ゆきちゃん、これはちょっと…。」
みゆきブラカワニ
「あ、ごめんなさい！！」

ガラハド
「さて、作者は置いといて。」
つかさ
「Σ作者さん、放置するの！！？」
シャイアン
「次は、こなたとかがみがテストを担当するのだが…。」

こなたシャウタ
「私ゃシャウタか。ま、いいけど。」←オーズのスペック中最下位
かがみタトバ
「んっふっふっ。今回ばかりは私の勝ちね。」
ガラハド
「それはどうかな？」←何か隠してる
シャイアン
「では、テスト開始！」

こなたシャウタ
「ウナギクラーッシュ！！」←ウナギムチ展開（ただし先端に分銅あり）
かがみタトバ
「ひでぶっ！！」←横殴りに命中
こなたシャウタ
「更にシャチビーム！！」←目から光線
かがみタトバ
「うきゃあぁぁぁぁぁ！！」
こなた
「仕上げのタコドリルキイィィィィック！！」←左足だけタコ足

ドリルに変形
かがみタトバ
「ぐげごばしゃあっ！！」←顔面直撃

つかさ
「い、痛そ～う…。」
いずみ
「は、博士！あのシャウタ、少し反則ですよ！」
ガラハド
「あ、あれね。シャウタの低スペックを補うために少し改良しておいたんだが。」
いずみ
（いや、いくらシャウタが弱いからって分銅や光線は少しまずいんじゃ？）

かがみタトバ
「こなた、調子に乗るのもいい加減にしなさいよ…？」←ＲＵオーラ全開
こなたシャウタ
「仕方ないよ、これもテストなんだし。」
かがみタトバ
「けど、いきなり必殺技オンパレードはないと思うけど？」←指ポキポキ
こなたシャウタ
「かがみ、凶暴～！！」←火に油

かがみタトバ（中身はＲＵかがみ）
「や　か　ま　し　い　！」←自然発火能力、発動

こなたシャウタ
「きゃあぁぁぁぁぁ、あちちちちち！！」

XX
「あ～あ。」
つかさ
「お姉ちゃん、ストップストップ！！」
みゆき
「泉さんも、少し言い過ぎです。」
いずみ
「あの、私は何も言ってませんが。」←少しふくれている
みゆき
「あ、若瀬さんの事ではありませんので。」

シャッフルシャウタ
「…で、結局俺か。」
こなた
「……。」←ちょっと焦げただけ
かがみ
「仕方ないわよ、こなたが悪いから。」←結局テストから降ろされた
シャッフルシャウタ
「でもって、テストの相手が…。」

いずみラトラーター（ただしオーズドライバー版）
「♪」←嬉しそう
シャッフルシャウタ
（駄目だ、勝てねぇ…勝てる訳ねぇ…。）←シャウタはラトラーターと相性が悪い

ガラハド
「では、テスト開始！」
シャッフルシャウタ
「しゃあねぇ、やってみるか！」↑分銅ウナギムチ展開
いずみラトラーター
「行きまーす！」↑トラクロー展開
シャッフルシャウタ
「ウナギクラーッシュ！！」↑分銅ウナギムチを振り回す
いずみラトラーター
「はっ！！」↑マトリクス的緊急回避
シャッフルシャウタ
「やるな、嬢ちゃん！」いずみラトラーター
「シャッフルさんこそ！！」

ガラハド
「へぇー、オーズメモリーでもやるねぇ。」
シャイアン
「さすがだ。」

ー　15分経過　ー

シャッフルシャウタ
「はぁ、はぁ、はぁ…。」
いずみラトラーター
「な、なかなかやるわね、シャッフルさん…。」
つかさ
「すごいね、いずみちゃん。」
こなた

「ん？私？」↑復活
つかさ
「あ、こなちゃんの事じゃないから。」
かがみ
「まさにすさまじい戦いね…。」
みゆき
「多分、次の一撃で決まるでしょう。」

シャッフルシャウタ
「んじゃ、いくぜ！」↑スロットにセット

『シャウタ・マキシマム・ドライブ！！』

いずみラトラーター
「では、私も！」↑スロットにセット

『ラトラーター・マキシマム・ドライブ！！』

シャッフルシャウタ
「喰らえ、オクトバニッシュ！！」
いずみラトラーター
「受けなさい、ガッシュクロス！！」

ゴッ、ドオォォォォォ…ン↑ビル1棟が崩壊、周囲の建物に至っては完全崩壊

こなた
「い、威力ありすぎ…！！」
かがみ
「何、このオワタゲー。」
つかさ
「ち、ちょっと…どうして？」
みゆき
「もうすでに、ここの周辺が焼け野原ですよ…。」
シャイアン
「ち、父上…これは一体…。」
ガラハド
「うーん、何でだろう？こんなに威力を上げたつもりはなかったけどな…。」

シャイアンプトティラ
「そして、ラストは私か。」
シャッフル
「にしても、本気で殴らなくても…。」←こなたに殴られたいずみ
「いたたたた…。」←かがみにデコピンを喰らったこなた
「当然だよ、ビル1棟破壊したつかさならともかく。」
つかさ
「Σこなちゃんのくせにー！！」
かがみ
「ま、仕方ないわよこなた。でも、これはさすがに要調整ね。」←陳情書を書いているみゆき

「それにしても、シャイアンさんの相手は一体誰でしょう？」

ガラハドサゴーゾ
「じゃーん♪」
全員
「「「えぇぇぇぇ！！？自ら名乗り出たあぁぁぁぁぁ！！？」」」

こなた
「オワタ、完全にオワタ。」
つかさ
「親子対決になっちゃったよぉ～！お姉ちゃん、どうしよう！？」
↑意外な展開にあたふた
かがみ
「ねぇみゆき、誰か止める人はいないの？」
みゆき
「この状況で止められるとしたら…。」↑かがみとつかさを見る
こなた
「ここは…。」↑みゆきと同じく

かがみ・つかさ
「「えぇぇ…、やっぱり。」」
こなた
「ま、心配しなくてもいいよ。飽くまでかがみ達は保険だし。」
みゆき
「そうですね、万が一を考えての事ですから。」
かがみ・つかさ
「「保険、ねぇ…。」」

シャッフル
「では、テスト開始！」
シャイアンプトティラ
「いくぞ。」
ガラハドサゴーゾ
「よーし、バッチコーイ！！」↑腕をブンブン振り回している上、何故か大天使サゴーゾオーラが発動
いずみ
「やる気マンマンだあぁぁぁぁぁ！しかも変なサゴーゾが見えたあぁぁぁぁ！！」
こなた
「おじさんなら、やりかねないよ…。」↑あなたもね

ー　１０分経過　ー

※２人のテストは、サゴーゾの重力が辺りを破壊炎上し、プトティラが氷結攻撃で鎮火しながら（でも炎上場所が広すぎて間に合わない）攻撃する、といった面倒くさい攻防を繰り返していました

シャイアンプトティラ
「はああっ！」↑空中から氷結攻撃
ガラハドサゴーゾ
「ふんっ！」↑重力操作で回避＆ゴリバゴーンで反撃
シャイアンプトティラ
「そぉいっ！！」↑空中で回避しながらパンチ
ガラハドサゴーゾ
「ふおぉぉぉっ！！」↑マトリクス的に回避
シャッフル

「いやすごいな、この時点では双方互角だ。」
つかさ
「あの2人のパワー差って、確かプトティラが１０ｔでサゴーゾが８ｔだったよね、こなちゃん？」↑パンチ力の話です
こなた
「うん、そうだよ。」
いずみ
「でも何だか博士の方が押してる気がするけど、何故だろう？」
シャッフル
「そりゃ、作った本人だもの、当然でしょ。」↑データを入力しながら
みゆき
「シャイアンさんがまだメモリーの特性に慣れていないのも、原因の１つですが…。」
かがみ
「そろそろ2人を止めに入る？時間もないし。」↑ＳＵ準備中
つかさ
「あ、お姉ちゃん待って！」
かがみ
「どうしたの？」
つかさ
「もう決着が、ついたみたい。」

ガラハドサゴーゾ
「はぁ、はぁ、もうアカンわ。」↑体力が持たなくなったため、大の字になった
シャイアンプトティラ
「父上、無茶しすぎです。」
かがみ

「言った事じゃない。」←悪い予感的中

いずみ
「…ところで、ベンドラはどうします？」
シャイアン
「完全に火の海だからな…。」←変身解除した
シャッフル
「確かに、これは少しやりすぎたかも…。」
かがみ
「少しじゃないわ、かなりよ。」
シャッフル
「あぁ、そうだな。ヤバい事にならなきゃいいけど。」
いずみ
「ヤバい事？」
ガラハド
「さぁ、引き返すとするか！！」←何故か冷や汗

※全員が引き返した後、仮面ライダードラゴンナイト（以下ＤＫ）とウィングナイト（以下ＷＫ）がベンダラの異変を察知し、調査に現れました。

仮面ライダーＷＫ
「Σぱんだ、これはぁ！？」←あまりの事態に混乱している
仮面ライダーＤＫ
「ベ、ベンダラが…どうすれバインダー！！」←頭を抱えている

ボケ　9　オーズメモリー・フォーエバー　～ベンダラ、真っ赤に燃えて～（後

※数日後、こなた達は究極空間に現れた仮面ライダーＤＫ・ＷＫに説教を受けていました。

こなた・かがみ・つかさ・みゆき・いずみ
「「「「「「ごめんなさい…。」」」」」」
仮面ライダーＤＫ
「わかってくれればいいんだ、以後気をつけてね。」↑意外と優しく対応
仮面ライダーＷＫ
「それに作者、『ペンダラ』ではない、『ベンダラ』だからな。」
↑前回の予告参照
ＸＸ
「あぁ、それについては以後気をつけるよ。」

※その後、２人はガラハド・シャイアン・シャッフルにも厳重注意して、ベンダラに帰って行きました。

次回予告

ガラハド
「今回は、少し趣向を変えるぞ。」
つかさ
「何だか嫌な予感…。」

かがみダークキバ
「絶滅タイムよ、ありがたく思いなさい。」
全員
「「「全然ありがたくなあぁぁぁぁぁぁい！！」」」

こなたエターナル
「さぁ、萌えのパーティーを楽しみなぁ！！」
ゆたかダークカブト
「Σお姉ちゃん、似合いすぎ！！」

つかさリュウガ
「はあああっ！！」
みゆきネガ電王
「ではいきます、つかささん！！」

ボケ　１０

【１０回記念】激突！！ダークライダーカーニバル！！

はやと・勝舞ハンド

「「戦わなければ生き残れない！！」」

ボケ　１０　【１０回記念】激突！！ダークライダーカーニバル！！

シャイアン
「今回でスピンオフは１０回目に突入したな、こなた。」
こなた
「うん、そうだね～。」
ガラハド
「さて、そこで！」
かがみ
「一体何をやるの？」
ガラハド
「今回は少し趣向を変えるぞ。」
つかさ
「何だか、いやな予感…。」

ガラハド
「今の今まで触れなかった、ダークライダーによる試合をやりたいと思う！」
全員
「「「ダークライダーで！？」」」
みゆき
「でも、ダークライダーと言われましても、性能上私達に扱えるのかどうかわかりませんが。」
みさお
「そうだぜ。それにダークライダーって何やら怪しい機能があるらしいし、あまり関わりたくないぜ。」
ガラハド
「それについては大丈夫。今回私が用意したダークライダー用のギ

アやバックルには、怪しい機能や変身制限は外してあるから、安心して使ってくれ。」
こなた
「本当かなぁ、何だか不安しか感じられないけど…。」

※そんなこんなで、こなた達はガラハドが以前から開発してストックしたり、新規で開発していたダークライダー変身用のアイテムを借り受けました。

ガラハド
「では、みんながアイテムを手に入れたところで、試合を始めよう。第1試合は柊　かがみVSパトリシア・マーティンだ。」
かがみ
「最初は、私からね。」
パティ
「ワタシも、マケラレナイネ！」
つかさ
「お姉ちゃん、何を選んだろう…？」

かがみ
「来なさい、キバット！」
キバット2世
『さぁ、絶滅タイムだ。』
こなた
「キバット2世が来た、と言う事は…！」

キバット2世
『ガブリ！』↑かがみの手にかみついた
かがみ
「変身！！」

かがみダークキバ
「絶滅タイムよ、ありがたく思いなさい。」
全員
「「「全然ありがたくなあぁぁぁぁぁぁい！！」」」
こなた
「しかも、何でダークキバ？」
かがみダークキバ
「ま、たまにはいいじゃない。」
つかさ
「でも、かっこいいね。」
みゆき
「とても似合いますよ。」
こなた
「うーん、悔しいけど似合ってる。」
キバット2世
『で、我々の相手は…。』

ピッ、ピッ、ピッ。↑コード入力
『スタンバイ！』
パティ
「ヘンシン！」
『コンプリート！！』

パティオーガ

「スタンバイ・オーケー！！」
こなた
「えぇぇ、オーガなの？！」
ひより
「何故オーガアァァァ！？」
パティオーガ
「イチドやってミタカッタンデース！」
ひより
「あれって、５５５系最強クラスで、帝王のベルトの１つッスよ…。」↑顔面蒼白
こなた
「かがみならともかく、パティちゃんは大丈夫かなぁ…。」↑いきなりの最強対決に心配している
キバット２世
『まぁ…こちらも最強クラスだ、いきなりやられたはないと思うがな。』

ガラハド
「試合、開始！」カーン！↑ゴングを鳴らした
パティオーガ
「ダークキバのコウリャクなら、カンタンデース！！」↑すいかを投げた
キバット２世
『す、すいか…。』↑すいかに釘付け
かがみダークキバ
「え？」
キバット２世
『すいかあぁぁぁぁぁ！！』↑ダークキバから離脱
かがみダークキバ

「ちょwおまww戻ってきてよ、すいかに釣られないでえぇぇぇぇぇ！！」
パティオーガ
「チャンストウライデース！！」←ミッションメモリーを装着
『エクシード・チャージ！！』
かがみダークキバ
「あ゛。」
パティオーガ
「セイヤアァァァァァ！！」←オーガストラッシュ発動
かがみダークキバ
「覚えてなさい、あのバカコウモリイィィィィィィ！！」

こなた
「あちゃー、かがみんがやられちゃったよ。」
シャイアン
「まさか、こんな結果になろうとは…。」
キバット2世
『あー、おいしかった♪』←すいか1個を皮ごと食べきった
キバット3世
『いや何も、親父の性格までコピーしなくても…。（汗）』
こなた
「それより、かがみは？」

かがみ
「…あのバカコウモリ、後でムッコロス。」←変身解除されている
上、地面に大の字に埋まっている
つかさ

「Σお姉ちゃあぁぁぁぁぁん！！」
こなた
「Σかがみいいいいいん！！」

ガラハド
「さて第2試合は、日下部　みさおＶＳ田村　ひより！」
あやの
「みさちゃんは、何を選んだのかな？」

みさお
「変身！！」シャキーン！！

みさおオルタナティブ
「おっまたせー♪」
あやの
「Σえぇぇっ！オ、…オルタナティブ！！？」
みさおオルタナティブ
「どうしたの、あやの？」
あやの
「みさちゃんの事だから、グレイブを使うとばかり…。」
みさおオルタナティブ
「グレイブなら、あっち。」

ひより
「変身！！」↑オリハルコンプレートを通過

ひよりグレイブ
「じゃーん♪」
ゆたか

「田村さん、かっこいい！」
みなみ
「…がんばって。」
パティ
「レッツファイト！！」

ガラハド
「では、試合開始！」カーン！！
みさおオルタナティブ
「じゃ、いくゼ！」

『ソードベント！』←スラッシュダガーを召喚

ひよりグレイブ
「こちらも、いくッスよ！」←グレイブラウザーを構える
みさおオルタナティブ
「はあぁぁぁぁぁ！！」←スラッシュダガーを振り下ろす
ひよりグレイブ
「何のっ！！」←グレイブラウザーで受け止める
みさおオルタナティブ
「ウェイ！！」←再度振り回す
ひよりグレイブ
「ふおおっ！！」←左にかわしグレイブラウザーで薙ぐ
みさおオルタナティブ
「ウェ！！」←スラッシュダガーを盾にして防御
ひよりグレイブ
「ちいっ！！」←そのまま後退

こなた

「すごい斬り合いだ！」
つかさ
「でも、どちらも負けてないよ、こなちゃん！」
みゆき
「展開が読めませんね…。」

ー　１５分経過　ー

みさおオルタナティブ
「はぁ、はぁ、こ、このままでは埒が開かないゼ！」
ひよりグレイブ
「ならば一気に決着をつけるッス！！」

『ファイナル・ベント！！』↑サイコローグを召喚、サイコローダーに変形
『マイティ！！』

こなた
「いよいよだね！」
あやの
「うん、そうだね。（みさちゃん…）」

みさおオルタナティブ
「ウエェェェェイ！！」↑デッドエンド発動
ひよりグレイブ
「ウエェェェェイ！！」↑そのまま斬り込む

ゴウゥゥゥゥゥ…ン！！

ゆたか
「相打ち！？田村さん！！」
みなみ
「…待って、まだ決着はついていない。」
パティ
「リョウシャがタチアガリマシタ！」
ひよりグレイブ
「まだまだぁ！」

『キック！サンダー！マッハ！』↑どこからかラウズカードを取り出してラウズした

みさおオルタナティブ
「ちょw待てwwそれは反則だあぁぁぁぁぁぁ！！」

『ライトニング・ソニック！！』

ひよりグレイブ
「ザヨゴオォォォォォォ！！」
みさおオルタナティブ
「オンドゥルルラギッタンディスカアァァァァァァ！！」
あやの
「みさちゃあぁぁぁぁぁぁん！！」

こなた
「まさかのライトニング・ソニック…ひよりん、恐ろしい子！！」
つかさ
「切り札を使った時点で、勝負はついたはずなのに…。」

ゆたか
「田村さん、すごすぎる…。」

みさお
「あ゛ー、まさか自分自身の技にやられるなんて思わなかったよ。」
↑髪がアフロ
あやの
「みさちゃん、お疲れ様。（よかった、無事で）」

ガラハド
「さて、第3試合は泉　こなたＶＳ小早川　ゆたかの親戚対決だ！」
こなた
「ゆーちゃんが相手か…。どの位成長したか、見せてもらうよ！」
ゆたか
「お姉ちゃんも、どの位強くなったか見せてね！」

ゆたか
「来て、ダークカブトゼクター！！」
ギュイーン！！↑ゆたかの元に飛来
ゆたか
「変身！！」
『ヘンシン！…チェンジ・ビートル！！』

ゆたかダークカブト
「…何だか、みなみちゃんになった気分だね。ドキドキするよ。」
パピヨン
『しかしゆたか様、油断は禁物です。』↑今回もゆたかと1体化している
ゆたか

「うん、わかっているよパピヨンちゃん。」
パピヨン
『ところで、こなた様は一体何でくるのでしょうか？』

『エターナル！』
こなた
「変身！！」
『エターナル！！』

こなたエターナル
「さぁ、萌えのパーティーを楽しみなぁ！！」
ゆたかダークカブト
「Σお姉ちゃん、似合いすぎ！！」
かがみ
「ってか、『地獄のパーティータイム』じゃないの？！」
こなたエターナル
「まあまあかがみん、細かい事はいいから。」

ガラハド
「さて、試合開始！」カーン！！
こなたエターナル
「さぁいくよ！」↑エターナルエッジを構える
ゆたかダークカブト
「うん、負けないよ！」↑カブトクナイガン・クナイモードを構える
こなたエターナル
「ふおおっ！！」↑エターナルエッジを振り回す
ゆたかダークカブト
「はいっ！」↑それをかわし、カウンター気味にクナイガンを振り下ろす

こなたエターナル
「ならばこれで！」↑さらにかわし、エターナルエッジで斬りつつローキックを放つ
パピヨン
『くうっ！…ゆたか様、こちらもコンビネーションで攻めましょう！』
ゆたか
「そうだね、じゃあこれで！！」↑右ストレートでフェイントをかけ、左手に持たせたクナイガンで斬りつける
こなたエターナル
「うおっ、やるねー！」
ゆたか
「お姉ちゃんこそ！」
こなたエターナル
「ならば！」↑スロットルにガイアメモリーをセット

『ユニコーン・マキシマム・ドライブ！！』

こなたエターナル
「元祖ユニコーン・ライダー・パンチ！！」
全員
「「「元祖！！？」」」
かがみ
「…あ、そうか。」
つかさ
「？」
みゆき
「いつも平野さんが使っていたので忘れていましたが、元々は泉さんの持ち物だったのですよ。」
つかさ

「そうだった、すっかり忘れてた～！」
かがみ
「つかさ、忘れちゃダメじゃない。ちゃんと覚えなきゃ。」
つかさ
「はぅ～。…ｏｒｚ」←へこんだ
みさお
「あ、でも元祖…なんとかパンチは避けられたみたい。」
あやの
「それを言うなら、ユニコーン・ライダー・パンチだよ、みさちゃん。」

こなたエターナル
「くぅ～、ゆーちゃんに避けられるなんて！…ま、久々のロストドライバーだから無理もないか。」
ゆたかダークカブト
（パピヨンちゃん、クロックアップを使ってみるね。）
パピヨン
（クロックアップですか…、試してみる価値はありますね。使ってみましょう。）
ゆたかダークカブト
（じゃ、やってみるよ！）

ゆたかダークカブト
「クロックアップ！！」←起動スイッチを押した
こなたエターナル
「しまった！！」

…シーン。

ゆたかダークカブト
「あ、あれ？」
みなみ
「…どうしたの、ゆたか。」
ゆたかダークカブト
「クロックアップが動かないよ～！」
みなみ
「Σ動かない！？」
こなたエターナル
「Σゆーちゃん、クロックアップ故障してるの！？」
ゆたかダークカブト
「どうも、そうみたい。」
ガラハド
「あぁっ、しまった！」↑何かを思い出した
シャイアン
「父上？」
ガラハド
「そうだった、ダークカブトゼクターはまだ修理中だったの忘れてたあぁぁぁ！！」
全員
「「「いや、ちゃんと修理してから使おうよ！！」」」
こなたエターナル
「じゃ、これも…。」↑スロットルにエターナル・メモリーをセット
シーン…。

こなたエターナル
「やっぱりウンともスンとも言わない…。」
ガラハド
「考えてみたら、エターナル・メモリーも修理中だった…。この試合は、引き分けの方向で…ｏｒｚ」
こなたエターナル・ゆたかダークカブト
（（ですよねー。））

こなた
「それにしても、何で修理中のアイテムを使わせるのかねぇ。…おかげで不完全燃焼だよ。」
ゆたか
「でも、お姉ちゃんも強かったよ。」
こなた
「ありがと、ゆーちゃん。やっぱりゆーちゃんは優しいね。」↑頭ナデナデ

ガラハド
「さぁいよいよ試合も残り２つ！続いては峰岸　あやのＶＳ岩崎みなみ！」
みさお
「あやのは何で来るのかなぁ～？」
ゆたか
「みなみちゃんは何を使うのかな？」

みなみＧ－４
「…お待たせ。」
つかさ

「どうしてＧ－４ォォォォォ！！？」
みなみＧ－４
「…これしかなかった。」
ゆたか
「でもみなみちゃん、かっこいいよ。」
みなみＧ－４
「ありがとう、ゆたか。」←仮面の下で照れている

ピッ、ピッ、ピッ←コード入力
『スタンバイ！』
あやの
「変身！」
『コンプリート！！』

あやのサイガ
「私は、これでいくわ。」
ひより
「えぇぇ、サイガを使うッスか！？…サイガは扱いがすごく難しいッスよ？」←帝王のベルトの１つだから
みさお
「あやの、５５５系だからって無茶だけはしないでね。」
あやのサイガ
「心配しないで、みさちゃん。」
こなた
（みさきちも、心配性だねぇ…。）

ガラハド
「では、試合開始！」カーン！！

みなみG－４
「…いきます。」↑ギガント、スタンバイ完了
あやのサイガ
「（あれにやられる訳にはいかないわ、すぐに回避しなきゃ。）…あ、あれ？スラスターの出力が上がらないわ。」↑スピードが上がらない
こなた
「サイガのスピードが鈍いね、どうしたんだろう？」
みさお
「あ、本当だ。」
シャイアン
「父上、サイガの動きがおかしいが、一体…。」
ガラハド
「いかん、スラスターの機能が低下している！飛行用回路が断線しているんだ！！」
シャイアン
「何…だと？」

みなみG－４
「もらいました。」↑ギガント発射
あやのサイガ
「…はっ！！」↑緊急回避
こなた
「やった、流石あやのさん！！」

みなみG－４
「…ホーミング・モード、起動。」↑音声入力
あやのサイガ
「？」

キィィィィィ…ン↑背後から来た

あやのサイガ
「ヴゾナノドンドコドーン！！？」↑背後から全弾命中
みさお
「あやのおぉぉぉぉぉぉ！？」

こなた
「あ、あやのさんオワタ。」
みさお
「あやのおぉぉぉぉぉぉ…ｏｒｚ（泣）」
かがみ
「気を落とさないで日下部、峰岸はあっさりやられたりはしないわよ。」
みさお
「本当？」
かがみ
「ほら見て、峰岸が立ち上がったわよ。」
みさお
「あ～、よかった。…って、あやのがこっちに来たよ？」
かがみ
「峰岸？」
あやのサイガ
「みさちゃん、キングラウザーを貸して。あと、ギルドラウズカードも。」↑大天使龍騎オーラ発動
みさお
「ウェ？いいけど。」↑あやのにキングラウザー１式を貸した

『スペード１０！ジャック！クィーン！キング！エース！』

あやのサイガ
「…これなら！」←背後に大天使ナイト・サバイヴ降臨
『ロイヤルストレー…』

みなみG－4
「では、私はこれで。」←烈火大斬刀を手にしている
あやのサイガ
「…え。」
みなみG－4
「…そぉいっ！！」←百火繚乱であやのサイガを攻撃
あやのサイガ
「オッペケテンムッキイィィィィ！！」
みさお
「あ、あやのおぉぉぉぉぉ！！？」

つかさ
「ゆ、ゆきちゃん、今の見た？」←ガクガクブルブル
みゆき
「えぇ、あれは確かみなみちゃんの家に代々伝わる家宝の刀だと、聞いていますが…。」
こなた
「Σあれが家宝の刀ぁ！！？」
みゆき
「私も、鍛錬に使わせてもらった事がありますので…。」
かがみ
（みゆき、その刀を鍛錬に使わないでよ…。てか、あれって別の世界の武器じゃあ…？）
キバット2世
『しかし大した腕前だな、あの少女は。…イテテテ』←かがみに握

り潰されている
こなた
「ちょwかがみww」
キバット3世
『Σ親父モドキを握り潰すな、ミシミシいってるしいいいいい！！』

あやの
「みさちゃあぁぁぁぁぁん…！（泣）」←みさおに泣きついた
みさお
「あやの、もう大丈夫だからね。」←頭ナデナデ
キバット3世
「…しかし、若いっていいものだな。俺なんか、そんな青春を送った覚えが全くないからな。」
あやの・みさお
「「Σえぇぇ、本当に！！？」」
キバット3世
「あぁ、君達がうらやましいよ。」

ガラハド
「さぁ今回のラスト、柊　つかさVS高良　みゆきの1戦だ！！」
こなた
「これでラストかぁ…何だか寂しいね。」
パティ
「シカタアリマセンね、コナタ。」

ゆたか
「高良先輩、大丈夫かなぁ。」

みなみ
「…どうして？」
ゆたか
「うん、先輩が選んだのが…。」↑みゆきを指差す

みゆき
「変身！！」
『ネガフォーム！』

みゆきネガ電王
「はあぁぁぁぁ…はあっ！！」
パピヨン
『Σ何故ネガタロスの力を！？』
ゆたか
「うん、だから心配してるの。ネガタロスさんがらみだから、尚更ね。」
みなみ
「でも、心配はない。あれはネガタロスを全く必要としないシステムを採用しているから。」
ゆたか
「へぇー。…でも、ネガタロスさん抜きで大丈夫かな？」
みなみ
「それについては心配ない、と博士が言っていた。」
ゆたか
「…だといいんだけど。」

こなた
「あ、それはそうとゆーちゃん、リュウガのデッキはどうしたの？」

ゆたか
「え？それならパピヨンちゃんに預けてあるよ。どうして？」
こなた
「……。」↑つかさを指差す

つかさリュウガ
「お待たせ～。」
ゆたか
「Σな、何でつかさ先輩がリュウガに！！？」
パピヨン
『デッキはここにあるのに、どうして…。』
ガラハド
「あぁ、あれね。あれは神崎と共同で作ったライダーメモリーを使っているんだ。」
みなみ
「ライダーメモリー、ですか。」
こなた
「けど、カードはどうするの？」
ガラハド
「それについては、大丈夫。スマートブレイン社にあった、デルタ・ギアの音声認識システムを組み込んであるから、言うだけで能力が引き出せるんだ。」
かがみ
「じゃあ、能力使う度にいちいち言わなきゃならない訳？…面倒くさいわね。」

ガラハド
「では最終試合、開始！！」カーン！
つかさリュウガ

「はあぁぁぁぁぁ！！」←ドラグセイバーを呼び出した
みゆきネガ電王
「ではいきます、つかささん！」←ネガデンガッシャー・ソードを構える

ガシィッ！バンッ！グワシャッ！

かがみ
「ねぇ…つかさって、あんなにアグレッシブだったっけ？」
シャッフル（遅れてやって来た）
「普段はドジばかり踏んでるから、トロいとばかり…。」
シャイアン
「おそらくだが、あれが本来の彼女の動きだろう。力、技、速さ…どれを取ってもスキがない。」
こなた
「へー、つかさもやるねぇ。」

―　２０分経過　―

ゆたか
「みなみちゃん、すごい事になってきたね。」
みなみ
「２人共息が切れていない。動きもほぼ互角…。」
パティ
「アトハスペックのモンダイデショウ！」
ひより
「何だか悪い予かｎ『あーっ！あの野郎！！まだくたばってなかったのか！！』…え？」←何者かに憑依されたゆたか

「…田村さん？」

？？？ひより
『ここで会ったが百年目だ、今度こそブッ飛ばしてやるぜ！！』
ゆたか
「た、田村さん、どうしたの！？」
パピヨン
『ゆたか様、まさかとは思いますがモモタロスが田村様の体を借りているのでは…？』
ゆたか
「えぇぇぇぇぇ！？」

モモタロスひより
『変身！！』
『ソード・フォーム！！』

ひより電王ソードフォーム（以下電王S）
『俺、参上！！』
Pゆたか（パピヨンにバトンタッチした）
『おやめなさい、あれにはネガタロスは憑依しておりません！』
ひより電王S
『うるせぇ、あいつだけは何が何でもブッ飛ばさなきゃ、俺の気が収まらねぇ！』↑会場目指して走り出した
ゆたか
「どうしよう…。」
パピヨン
『仕方ありません、変身して追いかけましょう。』
ゆたか
「うん、そうだね。…変身！！」

『パピヨン・フォーム！！』
Ｎｅｗ電王Ｐ
『待ちなさーい！！』

ひより電王Ｓ
『待ちやがれ、俺の偽物！！』
みゆきネガ電王
「！？」
つかさリュウガ
「…モモちゃん？」
ひより電王Ｓ
『覚悟しな偽物、今その場でムッコロス！！』←デンガッシャーソードで斬りかかってきた
みゆきネガ電王
「Σえっ！？わ、私ですか！！？」←応戦している
こなた
「あーっ、あのバカタロス！それは違うって！」つかさリュウガ
「やめてモモちゃん、ゆきちゃんから離れて！」←しがみついて剥がそうとしている
あやの
「モモちゃん、それは全く違うネガ電王よ！」
みさお
「ナニヤティンディスカ、バカタロス！！」
ひより電王Ｓ
『バカ野郎、こいつぁ俺にとっては嫌な奴なんだ、今仕留めないでいつ仕留めるんだ！！』
シャッフル
「アホタロス、これは違うんだ！いい加減離れやがれぃ！」←引き

剥がそうとバックを取った
パティ
「モモ、ストップストーップ！！」↑止めに入った
みなみ
「…モモタロス、やめて！」
かがみ
「モモ、やめなさい！さもないと…！！（ブチッ）」↑切れた

ＲＵかがみ
「ムッコロス！！」↑自然発火能力、発動
ひより電王Ｓ
『ぎゃあぁぁぁぁぁあちちちち！！！！！』↑ピンポイントで焼かれた

※ちなみに、止めに入ったみんなはＲＵかがみを見て退却しました。

Ｎｅｗ電王Ｐ
『遅かった様ですね…。』
ゆたか
「うん…。」

こなた
「結局、バカタロスが乱入したせいで試合は無効になりました。」
↑大天使ディケイド（激情態）オーラ発動
みゆき
「仕方ありませんね。」
つかさ

「でも、ゆきちゃんも知らないうちに強くなったね。」
みゆき
「はい、鍛えてますから。（シュッ）」
つかさ
「ところで、モモちゃんは？」
こなた
「…あっち。」↑向こうを指差す

ひより
「わ…私の体はボドボドダァ…。」↑丸焦げ寸前で助け出された
パピヨン
『いい加減にしてほしいですね、モモタロス。』↑卍固めをかけている
モモタロス
『ごめんなさあぁぁぁぁぁい！！ゆ、ゆーちゃん、助けて！！』
ゆたか
「モモちゃんのバカァ！…もう知らない！！」↑泣き出した
モモタロス
『そ、そんなぁ…。』

こなた・つかさ
（（当然だよねー。））
シャッフル
（ま、天罰が下ったと考えよう。）

ガラハド
「これにて、ダークライダーカーニバル、終了！！」

ボケ　１０　【１０回記念】激突！！ダークライダーカーニバル！！（後書き）

次回予告

ガラハド
「今回は、ライダーにならなくてもいいぞー。」
つかさ
「え？」

かがみクラブキング
「はぁ？私がこれ！！？」シャイアン
「重力を操るサイボーグ…だと？」

シャイアンゴセイナイト
「やはり騎士は、こうでなくてはな。」
シャッフル黒騎士
「まぁ、間違えてはいないがな。」

マーベラスフォーゼ
「お宝キター！！」
海賊戦隊男性陣
「「「ナニヤティンディスカ、マーベラス（サン）！！」」」

ボケ　１１

「何故だ！？レンジャーキーとこなた達とマベちゃん乱心」

八坂　こう

「これで決まりだ！！（ここしか出番がない…）」←今の時点では

ボケ　１１　何故だ！レンジャーキーとこなた達とマベちゃん乱心

こなた
「最近ゴーカイジャーが、メッサ人気を集めてるね。」
かがみ
「ま、確かにマーベラスもかっこいいし、他のみんなも個性があって中々いいよね。」
つかさ
「それに、昔のスーパー戦隊の力を使えるのも魅力だよね、こなちゃん。」
こなた
「うん、そうだよね。私だったらさしずめシンケンレッド、かな。」
かがみ
「…前回みなみちゃんが使っていた、アレの持ち主ね。」←前回参照
つかさ
「私だったら、マジレッドかな？魔法使いって、魔法がいっぱい使えるでしょ。」
かがみ
「つかさって、本当に夢があっていいよね。私だったら間違いなくニンジャホワイト・鶴姫で決まりよ。体型が、すごくシャープだから。」

ガラハド
「おーい、こなちゃん。」
こなた
「あ、博士だ。」
かがみ
「博士、今回は何のテストを？」
ガラハド

「今回はライダーにならなくてもいいぞ。」
つかさ
「え？」
ガラハド
「今回は、レンジャーキーを使ったテストだ。」
3人
「「「やったあぁぁぁぁぁ！！」」」

みさお
「…それで私達も呼ばれたのカ。何だかなァ。」
ゆたか
「でも、ライダー以外に変身出来る機会って滅多にないから、かえってドキドキしちゃうね。」
こなた
「そうだね、ゆーちゃん。」↑頭ナデナデ
ひより
「いや、それはいいッスよ。問題は…。」

八坂　こう
「ここが究極空間か…。」
永森　やまと
「どうやら、そうね。」
毒島　みく
「作者ぁぁぁぁぁ！どこじゃあぁぁぁぁぁ！！」↑このままギルスになりそうな勢い
山辺　たまき
「ぶっさん、落ち着いて！」↑ぶっさんを羽交い締め
若瀬　いずみ

「全く…。」

ひより
「何で漫研部のみんなと委員長がいるんスか！！」

ガラハド
「まー…人数あわせ、だね。基本的に、戦隊モノは５人がオーソドックスだからな。」

シャイアン
「では、今回のゲストを紹介しよう。ゴーカイジャーの皆さんだ。」

マーベラス
「よぉ、俺がキャプテン・マーベラスだ。よろしくな！」

ジョー
「俺が、ジョー・ギブケンだ。」

ハカセ
「そして僕がドン・ドッゴイヤー。ハカセと呼んでね。」

レナ
「私がレナ・ミルフィだ。よろしくな。」

アイム
「アイム・ド・ファミーユです。皆さん、よろしくお願いします。」

伊狩　鎧
「そして俺が６人目のゴーカイジャー、伊…。」

こなた
「おぉぉぉぉぉ！歩く萌え要素キタ―ッ！！」

アイム
「え…？あ、歩く…？」↑何の事だかチンプンカンプン

かがみ
「あ、アイムさん。別に気にしなくていいですから。」↑こなたを押さえつけている

こなた
「か、かがみん、離せぇー！」
鎧
「おいいいいい！！俺の紹介がまだ終わってないって！！」
こなた達
「「「誰？」」」↑頭に？マークをつけながら
鎧
「…は？」
マーベラス
「鎧はお呼びじゃない、って言いたいそうだ、あのお嬢さん方は。」
鎧
「（ガーン！！）ナ、ナンダテー！？すいません、俺、泣いていいですか？…ｏｒｚ」
マーベラス
「鎧、冗談だからな。気にするな。」

ガラハド
「さて、今回の流れとしては、まず全員参加のレンジャーキー適応テストを行い、次にマーベラス達によるライダー適応テストを行う。」
マーベラス
「Σ俺達が仮面ライダーに！！？」
ジョー
「マーベラス、たまにはいいんじゃないか？最近ザンギャックの奴ら、なりを潜めているからな。」
ハカセ
「骨休めにはもってこいの企画だし、それに彼女達の実力も見たいし。」
マーベラス

「…そうだな。なら、ライダーの性能とやらを見るのも兼ねて付き合うか！！」
ガラハド
「さすがキャプテン、話が早い！」

ガラハド
「では、テストの内容を説明するぞ。…まずは、アイマスクと手袋を装着してレンジャーキーの入った宝箱の前に立つ。」
マーベラス
「そして、手袋を付けた方の手を伸ばしてくれ。レンジャーキーが個人に反応して、手元にくるはずだ。…後は、俺達が使っているモバイレーツにキーを差し、ひねるだけで適応した戦士にゴーカイチェンジ出来るぞ！」

こなた
「まずは、私達が最初ね。さぁ、バッチコーイ！シンケンレッド！！」
かがみ
「こなたったら、張り切っちゃって。」
つかさ
「う～ん、マジレッドは来てくれるかなぁ？」
みゆき
「私も、少しドキドキしますね。」
あやの
「みさちゃんがいないのは少し寂しいけれど、その分頑張らなきゃ。」
みさお

「あやのー、がんばって。」
こなた
「じゃ、いくよ。」

…ガシッ！↑手袋に手応えあり

かがみ
「…来た、ニンジャホワイト！」
つかさ
「あ、来た。」
みゆき
「私の方にも来ました。」
あやの
「私もよ。一体何が来たのかしら？」
こなた
「…では、せーの！！」

5人
「「「ゴーカイチェンジ！！」」」

『ボォォォォケンジャー！』
『ジィィィィャッカー！！』
『デェェェェカレンジャー！！』
『マァァァァジレンジャー！！』
『チェェェェンジマン！！』

こなたボウケンレッド
「…あれ？シンケンレッドじゃなくて？何で？」
シャイアン
「…多分、こなたの場合は宝探しと関係があるのでは…？」
こなたボウケンレッド
「宝探し、ねぇ…。」
シャイアン
「こなたは、よくアニメショップに行ってグッズとかを買って来たり、懸賞を出したりするだろう？宝探しと関係は大ありだ。」
ジョー
「それに、ボウケンジャーは冒険のエキスパートだからな。彼と世界を旅している事自体が、冒険そのものじゃないかな？」←こなたにウィンク
こなたボウケンレッド
「あ、そうか。（赤面）…で、かがみは？」

かがみクラブキング
「は？私がこれ！！？」←意外な結果にビックリ
シャイアン
「重力を操るサイボーグ…だと？」
みさお
「重力のかがみ、凶暴でんｓ「クラブ・メガトン！！」…えぼりゅうしょんっ？！」←かがみの一撃で吹き飛ばされた
かがみクラブキング
「ニンジャホワイトの夢が…夢が…ｏｒｚ」

つかさデカマスター
「で、何で私がこれ？」
こなたボウケンレッド

「つかさ、前にみんなを動物に例えた事、覚えてる？」
つかさデカマスター
「あ、あの事？うん、知ってるよ。」←詳しくは原作2巻を参照
こなた
「その時、つかさは犬に例えたじゃない。その影響だね。」
ルカ
「そう言えば、あんた見た目が子犬みたいでかわいいし。」
アイム
「笑顔も、すごく素敵でしたよ。」
つかさデカマスター
「はう～、あ、ありがとう。」

みゆきマジシャイン
「私がゴーカイチェンジしたのは、魔法使い系ですね。」
アイム
「それはマジシャインと言って、『マジレンジャー』に登場する天空聖者の1人です。こなたさんから学力が高いと聞きましたので、おそらく…。」
ハカセ
「学力が高いのかぁ、何だかあやかりたいなぁ。」
みゆきマジシャイン
「そうなのですか、ありがとうございます。」←アイムやハカセと気が合いそう

あやのチェンジドラゴン
「私がゴーカイチェンジしたのは、これね。…でも、何でこれ？」
かがみクラブキング
「多分、峰岸が龍騎に変身する関係上じゃないの？ドラゴン繋がりで。」
あやのチェンジドラゴン

「だからドラゴンなのね…。」←少し納得

みさお
「次は私達か…。私はやはりスペードエース、かな。」←ブレイドに変身する関係上
こう
「うーん、私だったらハードボイルドにデカレッドで決まり、だな。」
やまと
「私は、どれでもいいわ。変なのでなければ。」
みく
「私だったら、さしずめタイムファイヤーかな。」
たまき
「みくがタイムファイヤーなら、私はギンガマンのどれかだね。」

※省略

みさお
「んじゃみんな、いくよー！！」

5人
「「「「ゴーカイチェンジ！！」」」」

『バァァァイオマン！！』

『バァァァトルフィーバー・J！！』
『オォォォレンジャー！！』
『メェェェガレンジャー！！』
『ガァァァオレンジャー！！』

こうバトルジャパン
「…え？私はこれ？」
こなた
「でも何で？探偵繋がりでデカレンジャーじゃないの！？」
パティ
「ワカリマシタ！オソラクニホンのマンガのエイキョウデスネ！」
こうバトルジャパン
「なるほど、漫研部の部長だから、か…。（ガクーン）」←うなだれてしまった
こなた
「確かに日本の漫画って海外じゃすごい人気があるから、ねぇ。悪い事じゃないよ。」
こうバトルジャパン
「あぁ、何てこったぁ…ｏｒｚ」

やまとキングレンジャー
「私の場合は、大体わかる。」
こなた
「存在自体が謎、ってわけね。わかるわかる。」

みくメガレッド
「宇宙キタァァー！！…って、何か違あぁぁぁぁぁぁう！！」←大絶叫
ひより
「でも、よく似合ってますよ、先輩。」
みくメガレッド

「ありがとう、ひより。（泣）」

たまきガオブラック
「私の場合は…牛つながり、か。」↑仮面ライダーゾルダだから
ひより
「何となく、わかりまッス。」

こなた
「で、問題は…。」
みさおグリーンツー
「うえぇぇぇぇ！！？何でスペードエースじゃないの！！？」
マーベラス
「ん？スペードエースなら、ここにあるぞ。…ひょっとしたら嫌われたかも、な。」↑スペードエースのキーを手にしながら
みさおグリーンツー
「尚更納得いくかあぁぁぁぁぁ！！？」↑大絶叫
かがみ
「本当、どうして？」
あやの
「う～ん、何でかしら？」

こなた
「…あ、わかった。」
シャイアン
「理由がわかったのか？」
こなた
「うん。…みさきち、１度名乗りをやってみて。」
みさおグリーンツー
「うぇ？…あ、うん。」

みさおグリーンツー
「グディーヅー！！」

こなた
「これが理由だよ、みさきち。元祖オンドゥル語の戦隊ヒーローって訳。」
全員
「「「あぁー…。」」」
みさおグリーンツー
「もっと納得いくかあぁぁぁぁぁ！！…ｏｒｚ」

ゆたか
「次は、私達の番だね。」
みなみ
「…何が来るかは、私にもわからない。」
ひより
「ま、何でもいいッス。とにかく決めるッス。」
パティ
「ワタシにはナニガクルカ、ワカリマス！！」
いずみ
「やっぱ来てほしいのは、ターボレンジャーかな？同じ高校生だし。」
ゆたか
「来てくれるといいですね。」

※中略

ゆたか
「では、いきます！！」

5人
「「「ゴーカイチェンジ！！」」」

『ボォォォォケンジャー！！』
『『シィィィィンケンジャー！！』』
『ジュュュュウレンジャー！！』
『アァァァァバレンジャー！！』

ゆたかズバーン
「…え？何これ？」
マーベラス
「そいつぁ『ボウケンジャー』に登場した、大剣人と呼ばれる武器の1種だ。」
ゆたかズバーン
「えぇぇ、武器ですか？これ！！ズンズン」
ルカ
（何気にズバーンの台詞まで移ってる…。）
こなた
（ゆーちゃん、体力がないからレンジャーキーが気を利かせたのか

も…。）

みなみシンケンレッド
「そして私がこれ、ですか…。」
こなた
「うん、多分実家にある家宝繋がりだね。」←家宝が烈火大斬刀だから
ルカ
「よく似合ってるぞ。」
みなみシンケンレッド
「…ありがとう。（赤面）」

ひよりシンケンゴールド
「…で、私がこれッスか。寿司屋じゃなくて、同人書きなのに。…ｏｒｚ」
ハカセ
「でもどうしてだろう？共通点なんて無さそうだし。」
ガラハド
「いや、そうでもないぞ。彼女が変身する５５５は、フォトン・ブラッドと呼ばれる光エネルギーを使った必殺技を持っている。…と言う事は？」
ハカセ
「あっ、わかった！だから、マスクに光の文字が入ったシンケンゴールドになれたんだ！」
ひよりシンケンゴールド
「そうだったんスか…どうりで。出来れば剣繋がりでゴセイレッドになりたかったけど、今はこれで満足ッス！！」←気に入った
ジョー
（いや、むしろ光ならマスクマンの方が良かったのでは？）

パティティラノレンジャー
「イエー！ガンソパワーレンジャーにナレマシタ！！」
海賊戦隊全員
「「「パワーレンジャー？」」」
ガラハド
「…アメリカ版の戦隊ヒーローだよ。ま、リイマジ戦隊ヒーローと考えればいいかな？」
マーベラス
「アメリカ版、か…。で、１つ聞いていいか？」
ガラハド
「どうした？」

マーベラス
「その連中も俺達の仲間になれないか？」
ガラハド
「…まず無理だな。第一、キャプテンは英語が話せるか？」
マーベラス
「…無理。」
パティティラノレンジャー
「ナラ、ワタシがセツメイシマショウカ？」
ガラハド
「あぁそうだな。パティちゃん、彼にパワーレンジャーについてレクチャーしてやってくれないか？」
パティティラノレンジャー
「オーケー♪」

※ただいま説明中、しばらくお待ちください。

マーベラス
「なるほどな。世界は広いぜ。」
アイム
「マーベラスさん、すごくいい笑顔ですね。何かあったのですか？」
マーベラス
「…あぁ、ちょっとな。」

いずみアバレッド
「…。」↑怒りに震えている
ゆたかズバーン
「委員長？…ズンズン」
いずみアバレッド
「何で私がこれなんじゃあぁぁぁぁぁ！！」↑アバレモード突入
ゆたかズバーン
「みなみちゃん、止めて！ズンズン」
みなみゲキイエロー
「任せて…シンケンマル！」↑いずみアバレッドにヒット
いずみアバレッド
「ぶらかわにっ！？」↑吹き飛ばされた

シャッフル
「（仕事が片付いてやっと来た）しかし、何でアバレッドなんだ？」
シャイアン
「多分、内にストレスをため込んだ結果だろう。何のストレスかは聞かないが…。」
いずみアバレッド
（コミケの時のストレスが原因だな、こりゃ…。）↑原作7巻を参照

アイム
「ところでマーベラスさん、鎧さんを見かけませんか？さっきからいなくて探しているのですが…。」
マーベラス
「あいつなら、そのうちひょっこりと帰ってくるだろ、心配するな。…さぁ続いては、シャイアン達の番だな。」
シャイアン
「あぁ、そうだな。」
シャッフル
「レンジャーキーか、ずいぶん変わったアイテムで変身するんだな。」←モバイレーツを手にしながら
ガラハド
「いよいよ私も変身するのか、一生ものだけにドキドキするねぇ。」

※中略

シャイアン
「では、いくぞ。」
3人
「「「ゴーカイチェンジ！！」」」

『ゴォォォォセイジャー！！』
『ギィィィィンガマン！！』
『マァァァァジレンジャー！！』

シャイアンゴセイナイト
「やはり騎士は、こうでなくてはな。」↑家が騎士の家系
シャッフル黒騎士
「ま、間違えてはいないがな。」↑家が黒騎士の家系
こなた
「何だかすごくかっこいいね。」
かがみ
「本当にそうね。特にシャイアンさんなんか、よく似合うわ。」
シャッフル黒騎士
「じゃあ、俺は？」↑気にしてる
かがみ
「うーん、…どっちかな？微妙ね。」
シャッフル黒騎士
「Σずいぶん酷い扱いだな、ヲイ！！」

ガラハドウルザードファイヤー（以下ガラハドＵＦ）
「いゃ～、まさか私も騎士になるなんて夢のようだ。」
ジョー
「いや、意外だったな。」
アイム
「でも、よく似合ってますよ。」
ガラハドＵＦ
「あぁ、ありがとう…博士生活２５年、これほど嬉しい日はない！」
シャッフル黒騎士
「…おやっさん、それってど○性○エルのネタじゃあ…。って言うか、おやっさんの博士歴はそんなに長くないっての！」
ガラハド

「さて、キャプテン達の仮面ライダー適応テストが終わった訳で…。」
こなた
「Σい、いつの間に！」
かがみ
「Σ早すぎるわよ！」
ガラハド
「ま、そこは少し端折らないとな…それで結果なんだが、意外な結果が出た。」
つかさ
「意外な結果？」
ガラハド
「あぁ。まずは、これを見てくれ。」
みゆき
「こ、これは…。」
かがみ
「な　ん　だ　こ　れ　は　」

・マーベラス→555、響鬼
・ジョー→555、響鬼
・ルカ→555、響鬼
・ハカセ→555、響鬼
・アイム→555、響鬼

ガラハド
「…この結果を見て、どう思う？」
こなた
「555と響鬼だけ…だと？」
ガラハド
「そう、それだけしか適応出来なかった。」

こなた
「他はどうしたの？キバだっていけるはずだよ？」
ガラハド
「いやそれが、キバの時は大変だったんだ。…ハカセ君なんかキバットが魔皇力を注入した途端に、盛大に鼻血を吹いて気絶してしまったんだ。」

ハカセ
「Ｏｈ、モーレツ…。」↑回復したが、少しダメージが残っているルカ
「ねえハカセ、大丈夫？」
ジョー
「こりゃダメだな、しばらく休んでろ。」
アイム
「かわいそうなハカセさん…。」

※ジョー５５５の場合、ファイズエッジの威力が３倍になる。
※ハカセ響鬼の場合、音撃棒・烈火の威力が３倍になり、烈火弾のスピードもクロック・アップ並に速くなる。

シャッフル
「おやっさん、フォーゼドライバーを見なかった？」
ガラハド
「ん、どうした？」
シャッフル
「フォーゼドライバーが無いんだよ。確か、机の上に置いたはずなんだけど…。」
シャイアン
「そう言えば、アストロスイッチも数点無くなっているな。」

ジョー
「誰が持ち去ったか、大体わかった。」
シャッフル
「えっ？誰かわかるのか、本当に。」
ジョー
「あぁ、何せ俺の勘は世界で2番目だからな。」←1番はマーベラス
ハカセ
「…ジョーさん、一体年は幾つなんですか？」
ジョー
「ま、それはともかく、犯人は…アイツだ。」←向こうを指差す

マーベラスフォーゼ
「お宝キター！！」
海賊戦隊男性陣
「「ナニヤティンディスカ、マーベラス（サン）！！」」
ガラハド
「な、何てこった。まさか、キャプテンが犯人だなんて…。」
こう
「あちゃ～、私の勘も当たっちゃったよ！」
やまと
「私もね。」
みく
「何てこったあぁぁぁぁぁ！！」←体だけギルスになりかかっている
たまき
「ぶっさん、待って！落ち着いて！！」

マーベラスフォーゼ
「早速スイッチテストをやるぜ！」

『ロ・ケッ・ト・オン！』

ガラハド
「ロケットを使うのか、でも場所が悪すぎるぞ。」
ひより
「何となく、オチがわかってきた…。」↑いやな予感
ゆたか
「あ、それなら私も…。」↑上に同じく

マーベラスフォーゼ
「宇宙、キタアァァァァァ！！」↑ロケットモジュールの出力を全開にして飛び上がった
こなた達
「「「キャァァァァァ！！」」」↑スカートを必死で押さえているが、少し見えている

シャイアン
「」↑中身を見てしまい、気絶
シャッフル
「見なかった、今のは見なかった…。」↑見てしまったが、後が怖くて震えている
ガラハド
「キャプテン、はしゃぎすぎだな。」↑平常運行

マーベラスフォーゼ
「いやっほォォォォォォ！！」↑ノリノリ
ジョー
「おーいマーベラス、降りてこーい！」
ハカセ
「だめだこりゃ、全然話を聞いてない！」

マーベラスフォーゼ
「（１０分飛んでやっと降りてきた）さぁ、次のスイッチだ！」↑右腕側のスイッチ交換

『ファイヤー！』
『ファ・イ・ヤー・オン！！』

マーベラスフォーゼファイヤーステイト（以下マーベラスＦＦＳ）
「おっ、赤くなった。…どんな効果があるか、楽しみだ！」↑スイッチにハマった
ジョー
「だ、だめだ。マーベラスの奴すっかり乱心している！」
ガラハド
「それにあのスイッチは、まだ試作段階の未完成品なんだ、あれを使われたら体が持たなくなるぞ！」

ＲＵかがみ
「…私に任せて。」↑スカートの中身を見られてキレた
海賊戦隊男性陣
「「何これ１番怖いのキター！！」」
ルカ
「かがみ、精神ダメージは大丈夫かい？」
ＲＵかがみ
「大丈夫、もう平気。…それよりも、あのバカキリバを焼き尽くすわよ！」
マーベラスＦＦＳ
「誰がバカキリバだ！こうなったら、力を見せてやる！」↑両足のスイッチ交換

『ランチャー！』
『ガトリング！』
『ラ・ン・チャー・オン！！』
『ガ・ト・リ・ン・グ・オン！！』
『レー・ダー・オン！！』

マーベラスＦＦＳ
「どうだ、これがフル装備ＦＳだ！」
ＲＵかがみ
「甘い！」←自然発火能力、発動
ガラハド
「待てかがみちゃん、うかつに発火能力を使うな！そいつには火炎吸収能力があるんだ！」
ＲＵかがみ
「えっ、嘘！」

マーベラスＦＦＳ
「おっ、こいつぁスゲェな！…よーし、いくぜ！倍返しだ！！」←火炎吸収後レバーオン

『ファ・イ・ヤー、ラ・ン・チャー、ガ・ト・リ・ン・グ、レー・ダー、…リミット・ブレイク！！』

マーベラスＦＦＳ
「くらえ、ライダー乱れ撃ちカーニバル！！」←目が血走っている

ガロガロガロ…！！←乱れ撃ち開始、

全員
「「「わあぁぁぁぁぁ、もうダメだ！」」」

マーベラスＦＦＳ
「ヒィィィィィハァァァァァ！！こいつさえあればザンギャックも怖くないぜ！」←すっかり乱心している
全員
「「「だ、誰か止めてえぇぇぇぇぇ！！」」」

？？？
「笑え！（ゲシッ）」←銀の壁から蹴りが入った
マーベラスＦＦＳ
「たじゃどるっ！！」←前のめりに倒れ、変身も解けた
全員
「「「？」」」

鎧（矢車コスで登場）
「…。」←完全に目がすわっている
ジョー
「鎧、鎧じゃないか！どこをほっつき歩いていたんだ！それに何だ、その格好は！！」
ハカセ
「みんなでゴーカイチェンジしたデジカメがあるから、一緒に見ようよ！」
ルカ
「仮面ライダー適応テスト用の装備もあるから、こっちにおいで！テストしてないのは、鎧だけだよ！」

鎧
「…断る。」

海賊戦隊全員
「「「…は？」」」
鎧
「お前等はいいよなァ…そこにいる娘達をゴーカイチェンジさせて楽しんでいるし、みんな揃って仮面ライダーになったり…。どうせ俺なんか…。」
マーベラス
「おい鎧、やさぐれるのもいい加減にしろ！早くこっちに来い、お前が終わらなきゃ帰れないんだ！！」
鎧
「汚してやる、太陽を！…変身！！」

『ヘンシン！…チェンジ、キックホッパー！！』

こなた達
「「「えぇぇぇぇぇ！！キックホッパー！！？」」」
シャイアン
「あれは一体…？」
こなた
「あれはキックホッパー、『カブトの世界』のライダーで、地獄兄弟の兄貴こと矢車が変身するライダーなんだよ！」
マーベラス
「何っ、地獄兄弟！？…あいつ、その地獄兄弟とやらになってしまったのか？！」
シャイアン
「まさかな…。マーベラス、彼がああなった事に何か心当たりはあるのか？」
マーベラス
「すまん、多分俺のせいだ…。鎧、あれは冗談だと言ったはずだぞ、

何でそれを真に受ける！！」
鎧キックホッパー
「話は聞かん！…くたばれ、バカキリバ船長！！」
『ライダージャンプ！！…ライダーキック！！』←トドメ
鎧キックホッパー
「笑えぇぇぇぇぇ！！」
マーベラス
「ごめんなさぁぁぁぁぁい！！」

ジョー
「いろいろ世話になったな。」
ハカセ
「また落ち着きましたら遊びに来ますね。」
アイム
「それまで、ごきげんよう。」
鎧
「…光を求めるな！」←しつこい
みゆき
「では、またお会いしましょう。」
つかさ
「それまでお元気で～。」

ルカ
「それにしても…。」
マーベラス
「」←返事がない。只の屍の様だ▼

※この後、機嫌が直った鎧に適応テストを実施しましたが、キックホッパー（ｏｒパンチホッパー）しか適応しませんでした。
※ちなみに、鎧キックホッパーは矢車版よりも全体的に＋５ｔ強化されている。

ボケ　１１　何故だ！レンジャーキーとこなた達とマベちゃん乱心（後書き）

次回予告

ガラハド
「それにしても、オーメダルって本当に便利だね。」
いずみ
「まぁ、便利と言えば便利ですけど…。」

つかさラジャゾ
「はうぅ～、止まらないよぉ～！！」
みゆき
「きゃっ、こちらまで飛んで来ました！」
シャイアン
「だ、誰か彼女を止めてくれ、このままだと辺り一面火の海だ！」

唯ラトティラ
「あれ？何かおかしいかな？」
全員
「「「えぇぇぇぇぇ！！恐竜メダルとコンボォ！！？」」」

ボケ　１２

「何故こうなったし？亜種コンボフィーバー！？」

はやと・勝舞ハンド

「「青春、メダル・イン！！」」

ゆたか

「Σスイッチ・オンじゃないの！？」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4178r/

仮面ライダーアナザーディケイド・スピンオフ！！

2011年11月24日21時48分発行